

令和2年度

実態調査資料

東京都公立中学校副校長会

はじめに

東京都公立中学校副校長会 会長 岸川 孝

東京都公立中学校副校長会(以下都中副校長会)では、研究活動の一環として実態調査を継続的に行っています。この調査は全国公立学校教頭会とタイアップした形で実施いたしました。

事態調査の目的は

- (1) 副校長の現状を的確に把握し、地位向上を図るための資料とする。
- (2) 副校長としての責務、能力に対して正当な評価をし、それに見合った待遇改善を求め、東京都公立中学校の副校長が心身の健康保持の実現と、日々の職務に誇りとやりがいをもって校長とともに学校運営を推進するための資料とする。
- (3) 学校における働き方改革を推進するための資料とする。

の3点です。

さて、2019年12月、文部科学省が「GIGAスクール構想」を打ち出した。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受け2020年4月7日、萩生田 光一文部科学大臣は記者会見で、「GIGAスクール構想」を早期実現するための支援を積極的に推進すると表明しました。Society 5.0時代を生きる子ども達にとって、ICTを活用する力は必須になります。また、変化の激しい時代を生き抜くには従来の一斉教育だけではなく、子ども達、一人一人を大切にし、誰一人取り残すことのない、個別最適化された教育の実現が重要になります。そのためにAIの活用がより重要になっていくことでしょう。「GIGAスクール構想」では、1人1台端末の整備と合わせて、学習用ツールと校務のクラウド化を推奨しています。統合型校務支援システムをはじめとしたICT導入・運用を進めていくことで、名簿や出欠管理、授業の準備や成績処理などの校務の負担を大幅に軽減することができ、教員の働き方改革にも繋がります。「GIGAスクール構想」を推進することで教師のこれまでの働き方をさらに見直す機会になることを願っております。

今年度の調査では、新たに「校に配置されている、職員室アシスタント、校務支援員、サポートスタッフ等の事務処理を補佐する立場の人（以下校務支援スタッフ）は、主にどのような職務を担っていますか。次の項目の中で主な職務内容に近いものを3つお選びください。」と「副校長・教頭の立場から見て、校務支援スタッフの配置は、教職員にとってどのような効果が図られましたか。」が加わりました。校務支援スタッフの配置は、教材研究の時間が増え、生徒と関わる時間が増えたと回答してくださった副校長が多かったです。しかし、校務支援スタッフの配置により以上のような時間が生まれたことはうれしいことではありますが、それをどのように教員の働き方改革につなげていくかは、私達、副校長の課題となっていくのではないのでしょうか。

最後に、令和2年度「東京都公立中学校副校長会実態調査」を刊行するにあたり、ご協力をいただきました、会員の皆さま、調査部の皆さま、役員の皆様に深く感謝申し上げます

目 次	頁
はじめに	2
1 都道府県名を入力してください	5
2 区市町村名を入力してください	5
3 あなたの学校種を入力してください	5
4 あなたの学校名を入力してください	5
5 副校長・教頭の経験年数を入力してください	5
6 正規教員の人数を入力してください	6
7 あなたの学校の児童・生徒数をお選びください	7
8-1 あなたの学校の通常学級数を入力してください	8
8-2 あなたの学校の特別支援学級数を入力してください	9
9-1 あなたの学校の副校長・教頭の人数をお答えください	10
9-2 複数配置されている理由を選んでください	10
9-3 複数配置されたことは校務負担軽減につながっていますか	11
10 あなたは兼務している職務はありますか。	12
11 あなたの学校には事務職員が配置されていますか	13
11-2 あなたと事務職員とは適切に役割分担されていますか。	14
12 時間割に位置づけられた1週間の授業の持ち時数は何時間ですか。	15
13 あなたが、主に時間と労力を費やしている職務について、五段階の中で、最も当てはまる番号を入力してください。	16
14 副校長・教頭としてやりがいを感じる職務について五段階の中で、最も当てはまる番号を入力してください。	18
15 あなたが、負担(疲労やストレス)を感じる職務について五段階の中で、最も当てはまる番号を入力してください。	20
16 行事前や特別な日を除いて、日頃出勤から退勤まで、何時間くらい勤務をしていますか。	22
17 昨年度、有給休暇を、何日くらい取りましたか	23
18 昨年度、振替(いわゆる代休)がどれだけ取得できましたか	24
19 昨年度の週休日や祝日に、年間で何日くらい学校で仕事をしていますか	25
20 週休日にPTA行事や地域行事に年間で何日くらい参加していますか	26
21 出勤日の平均睡眠時間はどれくらいですか	27
22 教職員からどんな相談を受けていますか。当てはまるものを選んでください	28
23 副校長に必要な資質・能力は何だと思えますか。上位3つをお選びください	29

24-1	あなたの学校に配置されている主幹教諭の人数を入力してください	30
24-2	主幹教諭が配置されている方のみお答えください	
(1)	主幹教諭は、副校長・教頭の担うげみ校務を分担し助けていますか	31
(2)	主幹教諭はどんな主任の仕事をしていますか。	31
(3)	主幹教諭の配置は、副校長・教頭の負担軽減につながっていますか	32
25	職員室アシスタント・校務支援員・サポートスタッフ等の事務処理を補助する立場の人員が配置されていますか	33
26-1	25で(1)と答えた方のみお答えください。貴校に配置されている、職員室アシスタント、校務支援員、サポートスタッフ等の事務処理を補佐する立場の人(以下校務支援スタッフ)は、主にどのような職務を担っていますか。次の項目の中で主な職務内容に近いものを3つお選びください。	33
26-2	副校長・教頭の立場から見て、校務支援スタッフの配置は、教職員にとってどのような効果が図られましたか。	34
26-3	校務支援スタッフの配置は、副校長・教頭にとって職務上どのような効果が図られましたか。	34
27	スクールカウンセラーの配置状況についてお答え下さい	35
28	校務支援システムの導入状況についてお答え下さい	36
29	教職員が配置されるとしたら、どんな立場の教職員を求めますか。上位3つをお選びください。	37
30	各自治体(市区町村教委等)独自で採用している教職員として、どんな立場の方が配置されていますか。(複数回答可)	38
31	児童生徒が振替休業日をとらない土曜日の授業を年何回行っていますか。	39
32	施設開放についてお答えください。 (1) あなたの学校は学校開放をしていますか。 (2) 開放時の管理者(安全管理者)をお答えください。(複数回答可)	40
33-1	あなたの学校は、給食費を公会計化(給食費を市区町村の歳入・歳出とすること)していますか	41
33-2	33-1で ①いる と答えた方のみお答えください。公会計化に伴う事務処理はだれが行っていますか	41
34	あなたの学校の給食費未納状況についてお答えください。 未納者への督促を行っている職等をお答えください。(複数回答可)	42
	あとがき	43

1 都道府県名を入力してください

2 市区町村名を入力してください

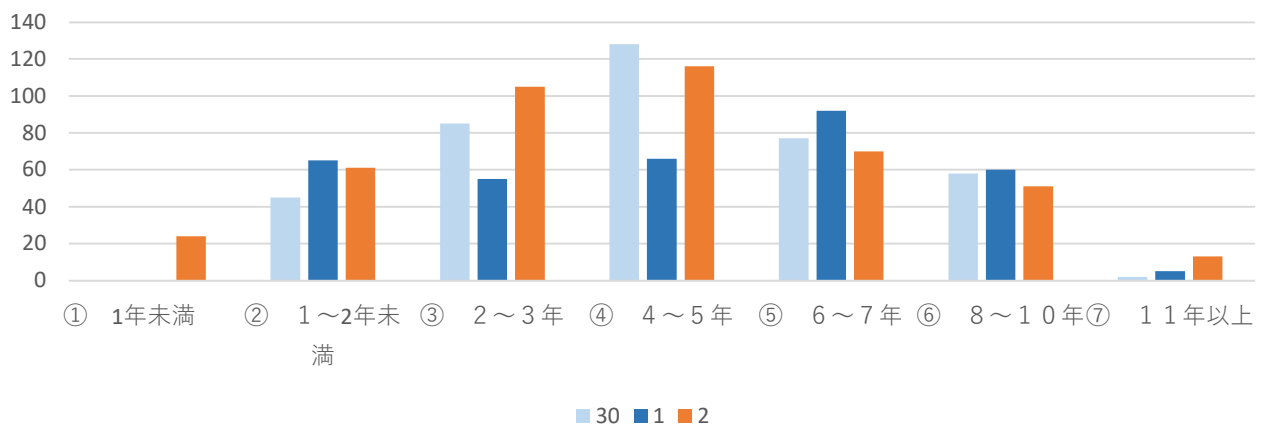
3 あなたの学校種を入力してください

4 あなたの学校名を入力してください

5 副校長・教頭の経験年数を入力して下さい。(副校長・教頭を経験されている方は合算して下さい)平成30年度末を基準にご回答下さい。

設 問	30	1	2
① 1年未満			24
② 1～2年未満	45	65	61
③ 2～3年	85	55	105
④ 4～5年	128	66	116
⑤ 6～7年	77	92	70
⑥ 8～10年	58	60	51
⑦ 11年以上	2	5	13
	395	343	440

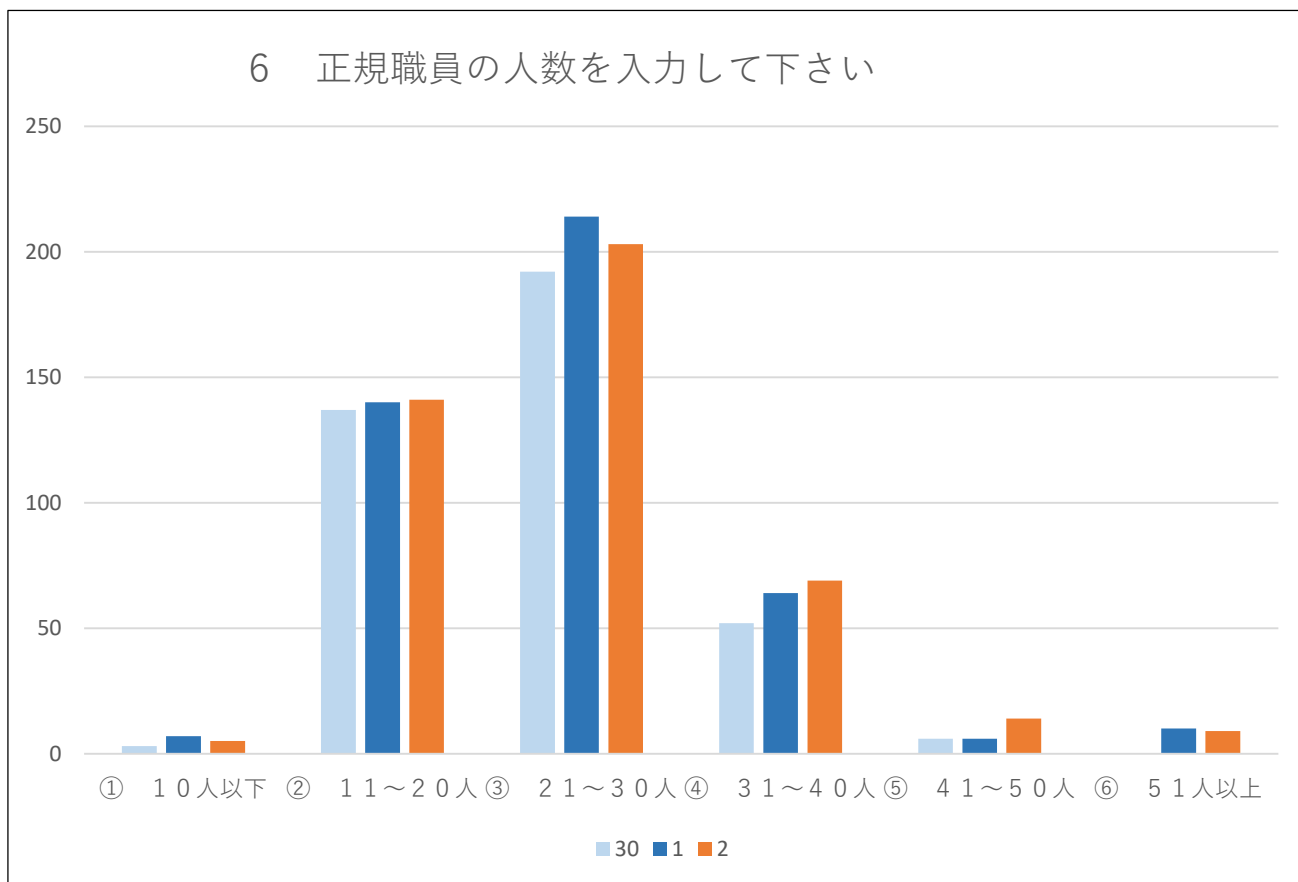
5 副校長の経験年数



〈分析・考察〉

③、④を併せ、経験年数2年～5年の副校長が全体(回答数)の50%を占めている。仕事を覚え、充実期を迎えた副校長の数が増えてきた実態が読み取れる。

6 正規職員の人数を入力して下さい			
設 問	30	1	2
① 10人以下	3	7	5
② 11～20人	137	140	141
③ 21～30人	192	214	203
④ 31～40人	52	64	69
⑤ 41～50人	6	6	14
⑥ 51人以上	0	10	9
	390	441	441



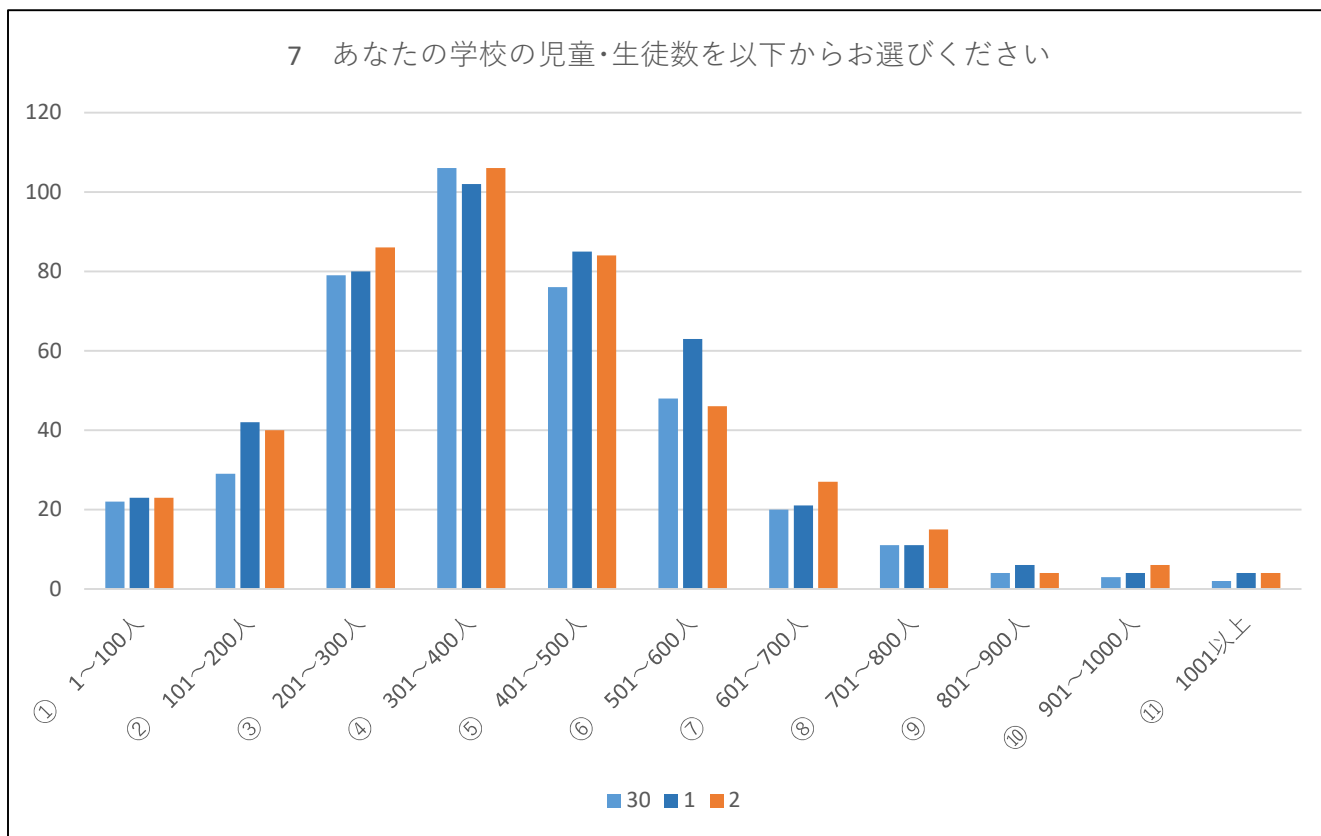
〈分析・考察〉

正規職員数については、令和元年度と同様に、21人～30人の規模の学校が最も多い。職員数の増加に比例し、勤怠管理や書類管理等の業務量は増加する。しかし、職員数が少ないからといって、基本的な校務の内容は大規模校と変わることはない。また、実際には、教職員の構成や地域性等により、有形無形に至るまで、その業務内容は膨大且つ多種多様である。すべてを副校長一人で担うのではなく、経営支援部を組織することやスクールサポートスタッフを活用することで、効率よく進めていけるとよい。

7あなたの学校の児童・生徒数を以下からお選び下さい。

設 問	30	1	2
① 1～100人	22	23	23
② 101～200人	29	42	40
③ 201～300人	79	80	86
④ 301～400人	106	102	106
⑤ 401～500人	76	85	84
⑥ 501～600人	48	63	46
⑦ 601～700人	20	21	27
⑧ 701～800人	11	11	15
⑨ 801～900人	4	6	4
⑩ 901～1000人	3	4	6
⑪ 1001以上	2	4	4

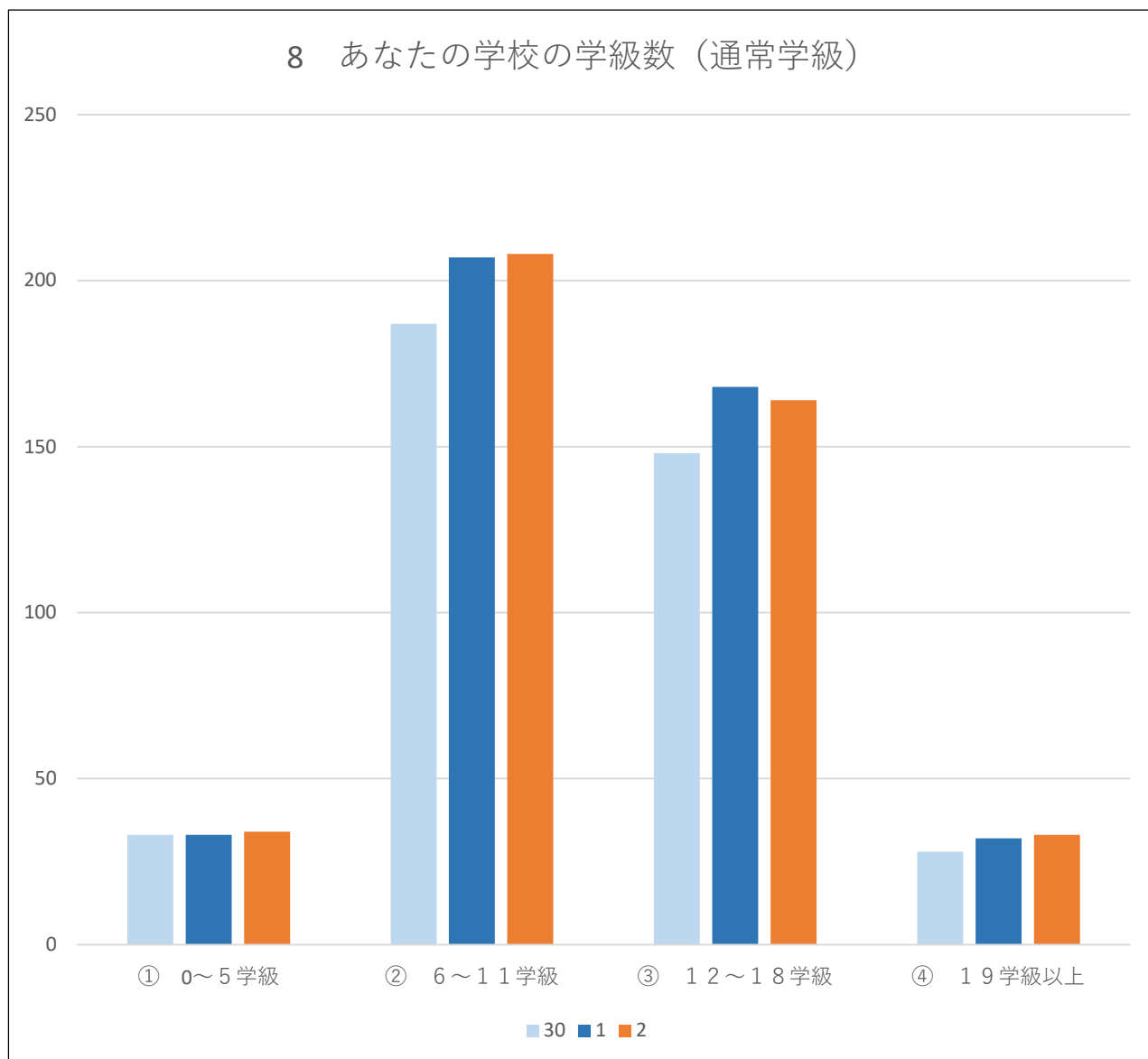
400 441 441



〈分析・考察〉

分布の傾向は、3年間変わっておらず、301～400人の中規模校の割合が最も多いことがわかる。

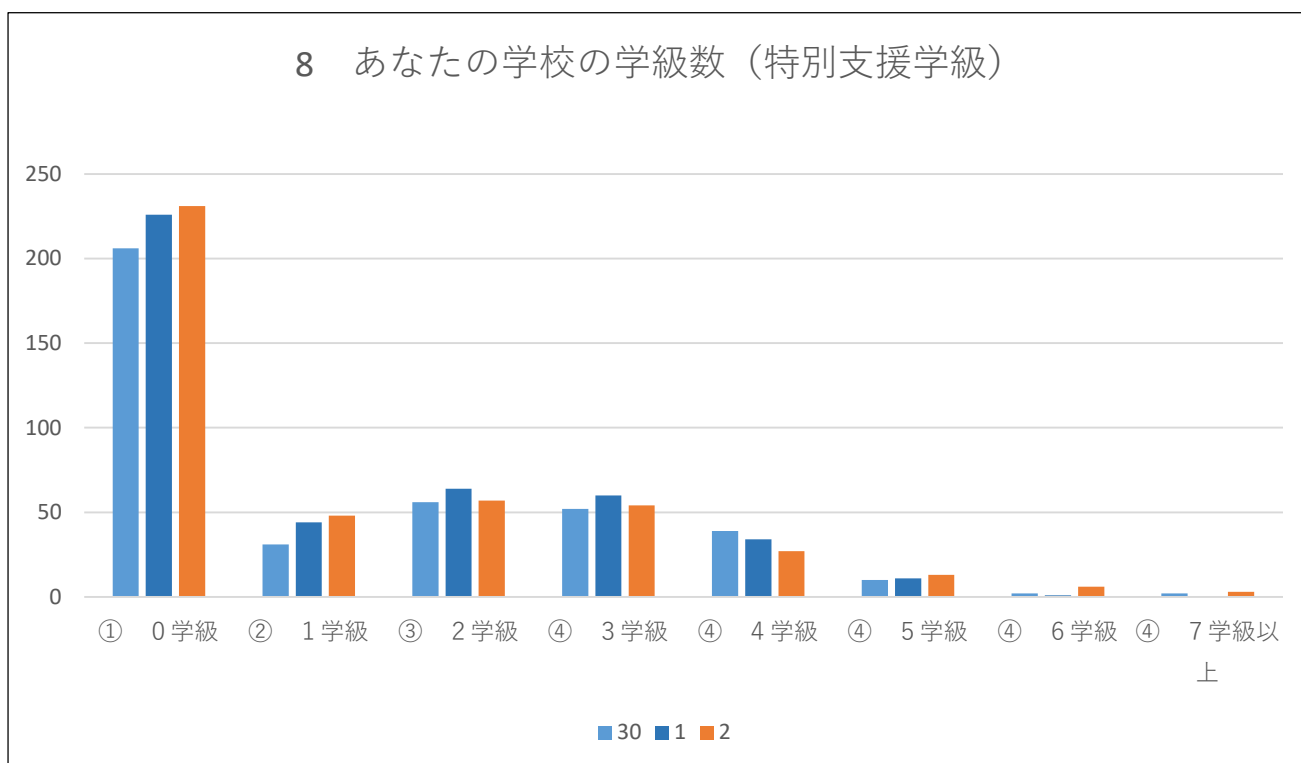
8-1 あなたの学校の学級数を入力して下さい			
設 問(通常の学級)	30	1	2
① 0～5学級	33	33	34
② 6～11学級	187	207	208
③ 12～18学級	148	168	164
④ 19学級以上	28	32	33
	396	440	439



〈分析・考察〉

分布の傾向は、3年間変わっておらず、6～11学級の小、中規模校の割合が最も多いことがわかる。

8-2 あなたの学校の学級数を入力して下さい			
設 問(特別支援学級)	30	1	2
① 0学級	206	226	231
② 1学級	31	44	48
③ 2学級	56	64	57
④ 3学級	52	60	54
④ 4学級	39	34	27
④ 5学級	10	11	13
④ 6学級	2	1	6
④ 7学級以上	2	0	3
	398	440	439



〈分析・考察〉

特別支援学級未配置が大部分であるが配置校では生徒数の増加に伴い学級数が増加傾向にある。分布の傾向は、3年間変わっていないが、1学級の増減で教員の配置数、講師の配置時間が大きく変わってくるので、副校長の仕事量にも影響してくるところである。

9-1 あなたの学校の副校長・教頭の人数をお答え下さい。

設問	30	1	2
① 1人	380	410	417
② 2人	7	11	6
③ 3人以上	13	20	18
	400	441	441

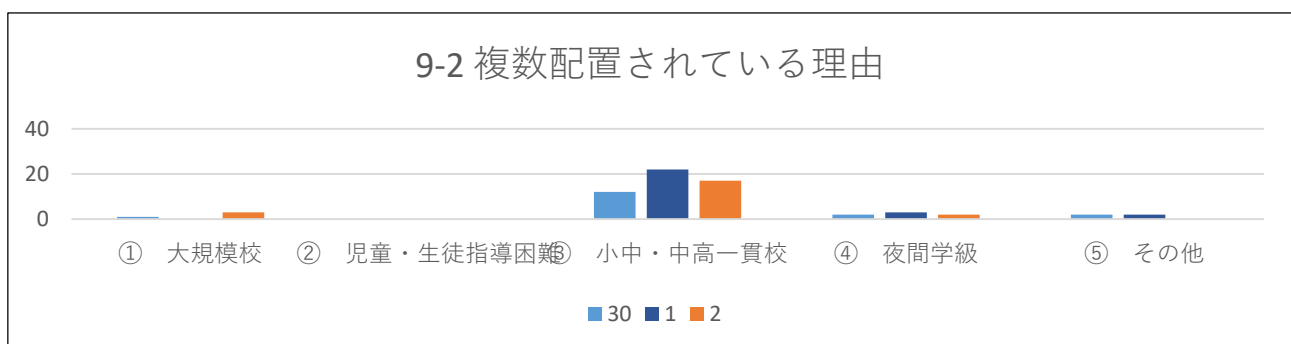


〈分析・考察〉

概ね1人勤務であるが小中一貫校では複数配置もある。

9-2 複数配置されている理由を選んで下さい。
(副校長・教頭が複数配置されている学校のみお答え下さい)

設問	30	1	2
① 大規模校	1	0	3
② 児童・生徒指導困難	0	0	0
③ 小中・中高一貫校	12	22	17
④ 夜間学級	2	3	2
⑤ その他	2	2	0
	17	27	22



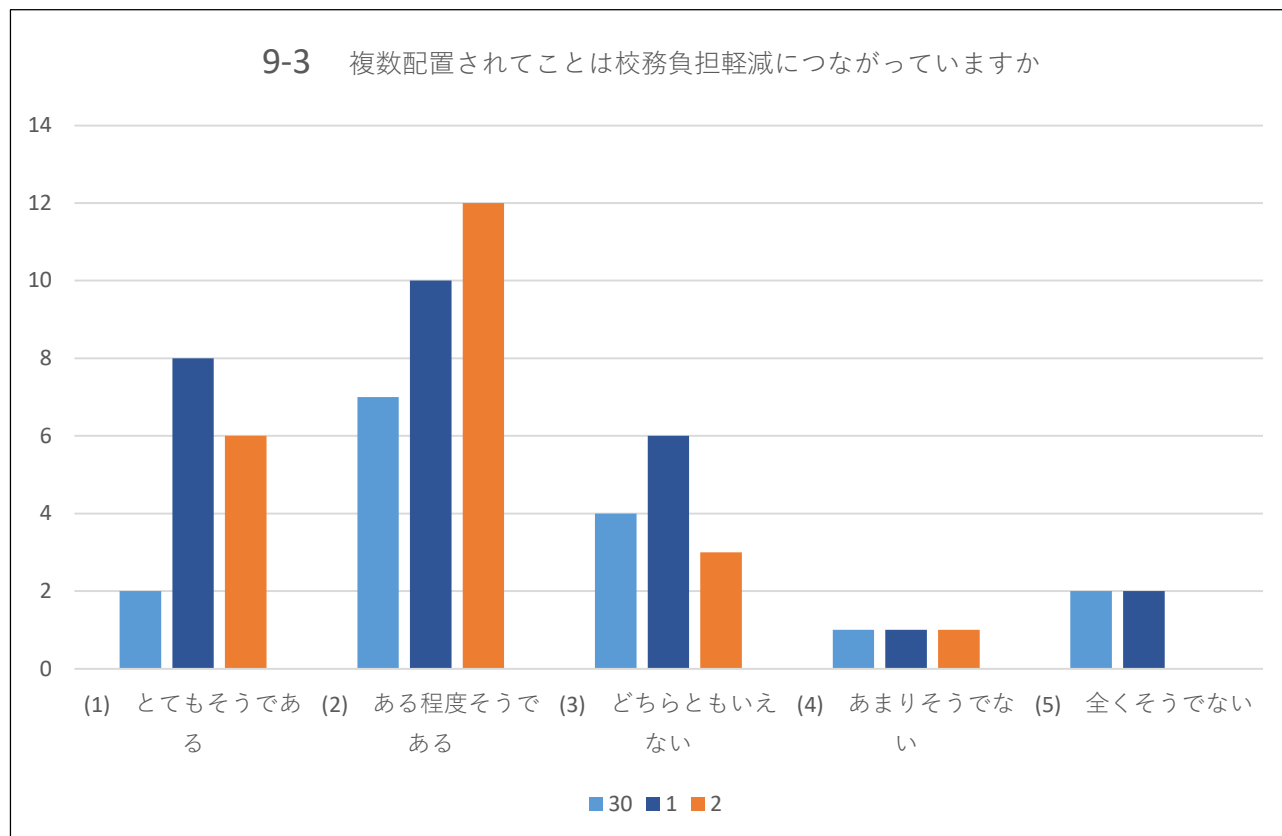
〈分析・考察〉

小中一貫校や義務教育学校で複数配置されているが大規模校にも必要である。副校長の補佐が出来るSSCの全校配置が望まれる。

9-3 複数配置されたことは校務負担軽減につながっていますか。
(副校長・教頭が複数配置されている学校のみお答え下さい)

設 問	30	1	2
(1) とてもそうである	2	8	6
(2) ある程度そうである	7	10	12
(3) どちらともいえない	4	6	3
(4) あまりそうでない	1	1	1
(5) 全くそうでない	2	2	0

16 27 22

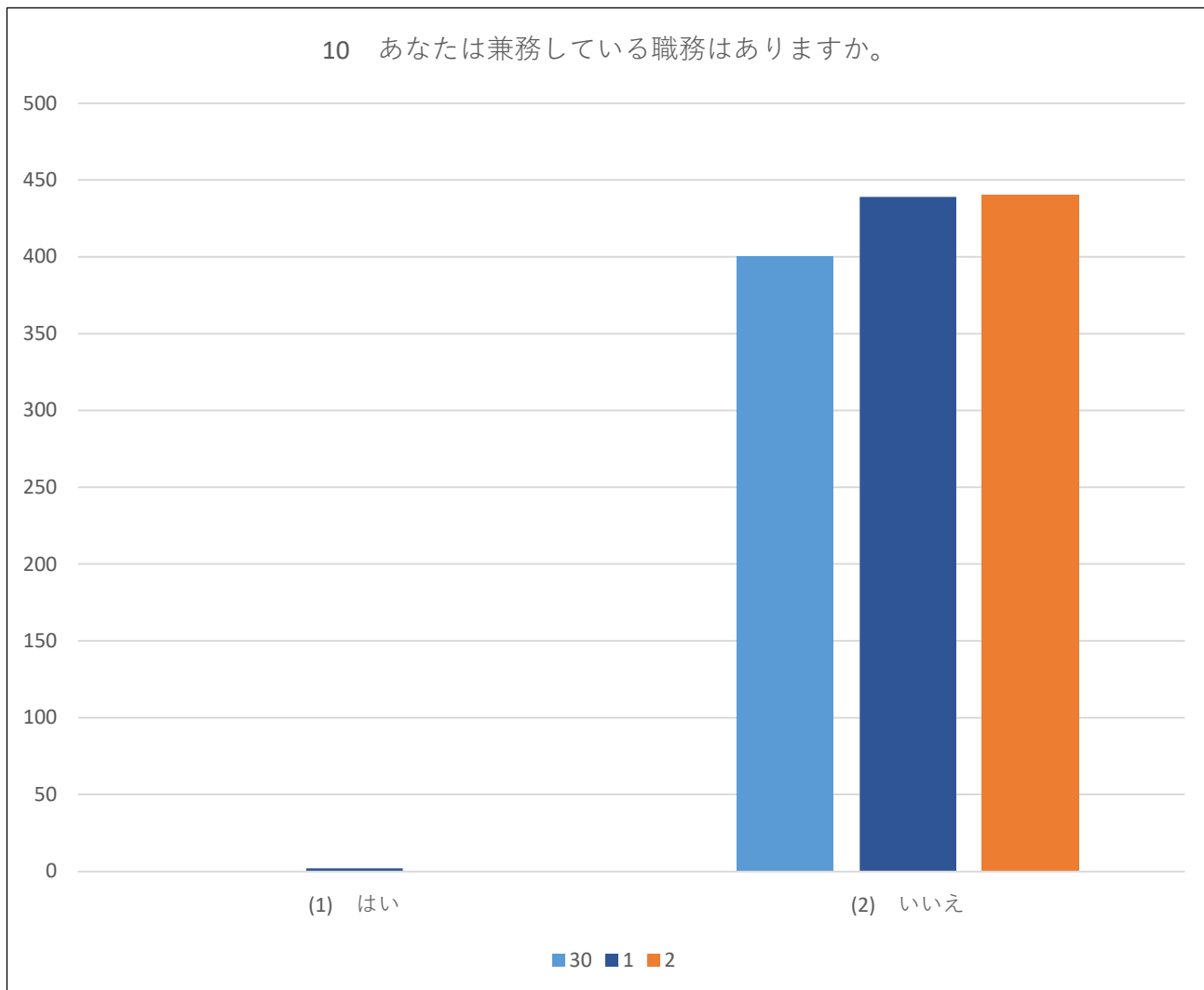


〈分析・考察〉

都内の95%以上の中学校において、副校長は単独配置である。複数配置校について、『校務負担の軽減に結びつく』という肯定的な回答がほとんどであったが、軽減効果が図れていない学校もあった。

小中、または中高の一貫校が複数配置の大きな理由ということから考えると、効果が上がった学校は、担当が明確であったためと考察できる。

10 あなたは兼務している職務はありますか。			
設問	30	1	2
(1) はい	0	2	0
(2) いいえ	400	439	440
	400	441	440

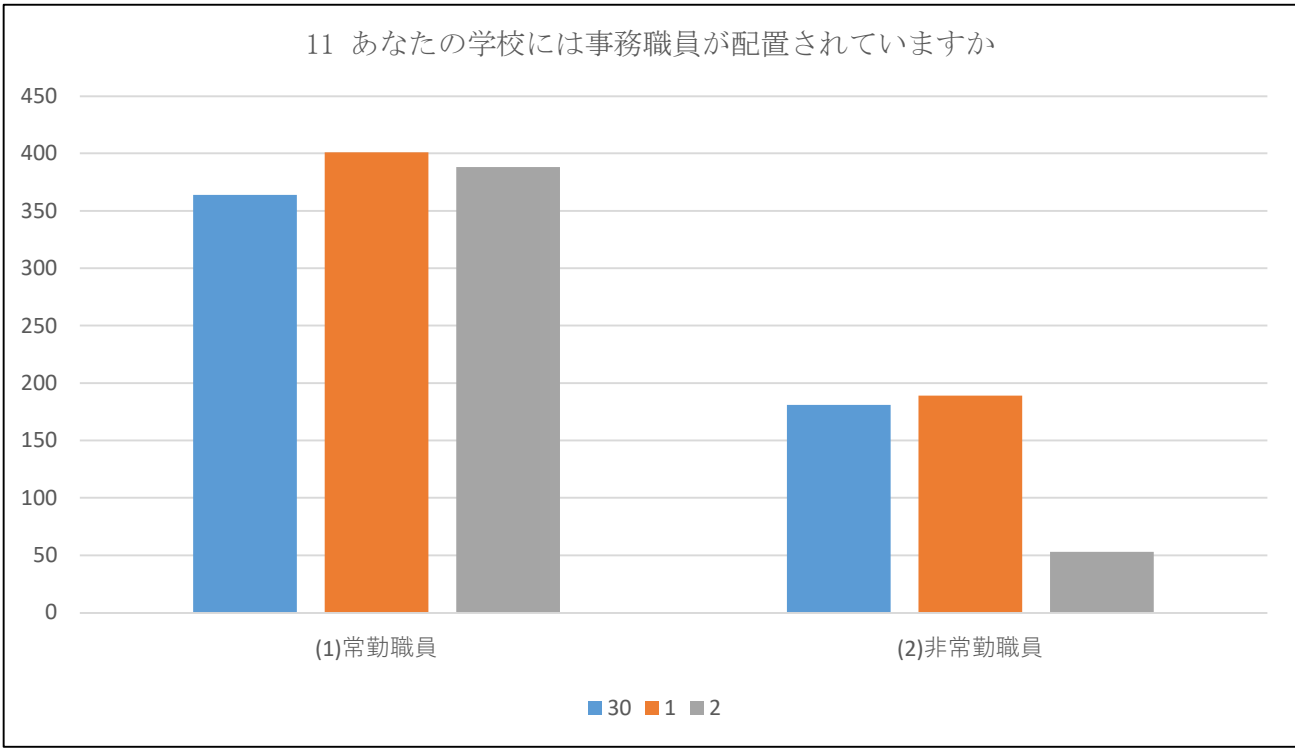


〈分析・考察〉

兼務している副校長は0であった。

11 あなたの学校には事務職員が配置されていますか

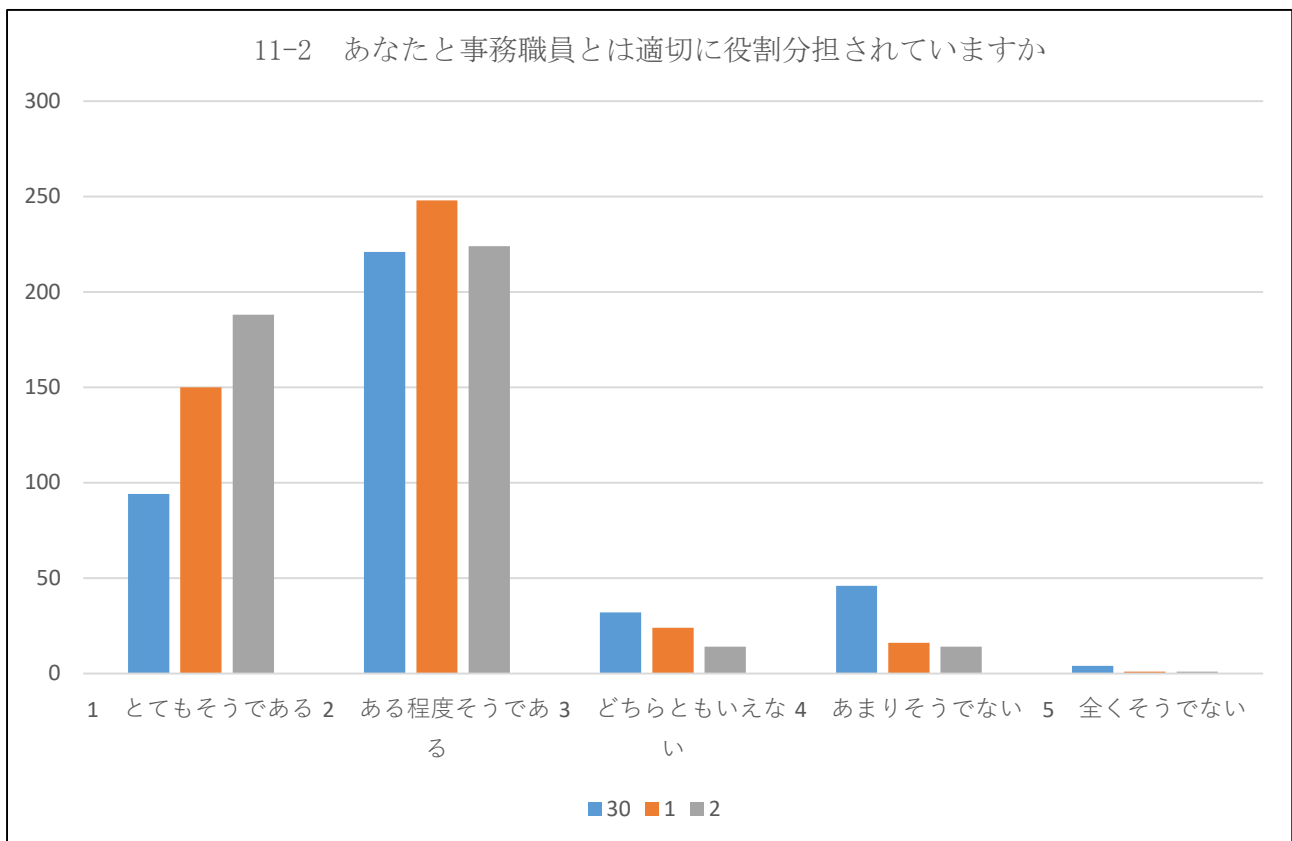
設問	30	1	2
(1)常勤職員	364	401	388
(2)非常勤職員	181	189	53
	545	590	441



〈分析・考察〉

約94%の学校には常勤職員の配置がある。

11-2 あなたと事務職員とは適切に役割分担されていますか。			
設問	30	1	2
1 とてもそうである	94	150	188
2 ある程度そうである	221	248	224
3 どちらともいえない	32	24	14
4 あまりそうでない	46	16	14
5 全くそうでない	4	1	1
	397	439	441



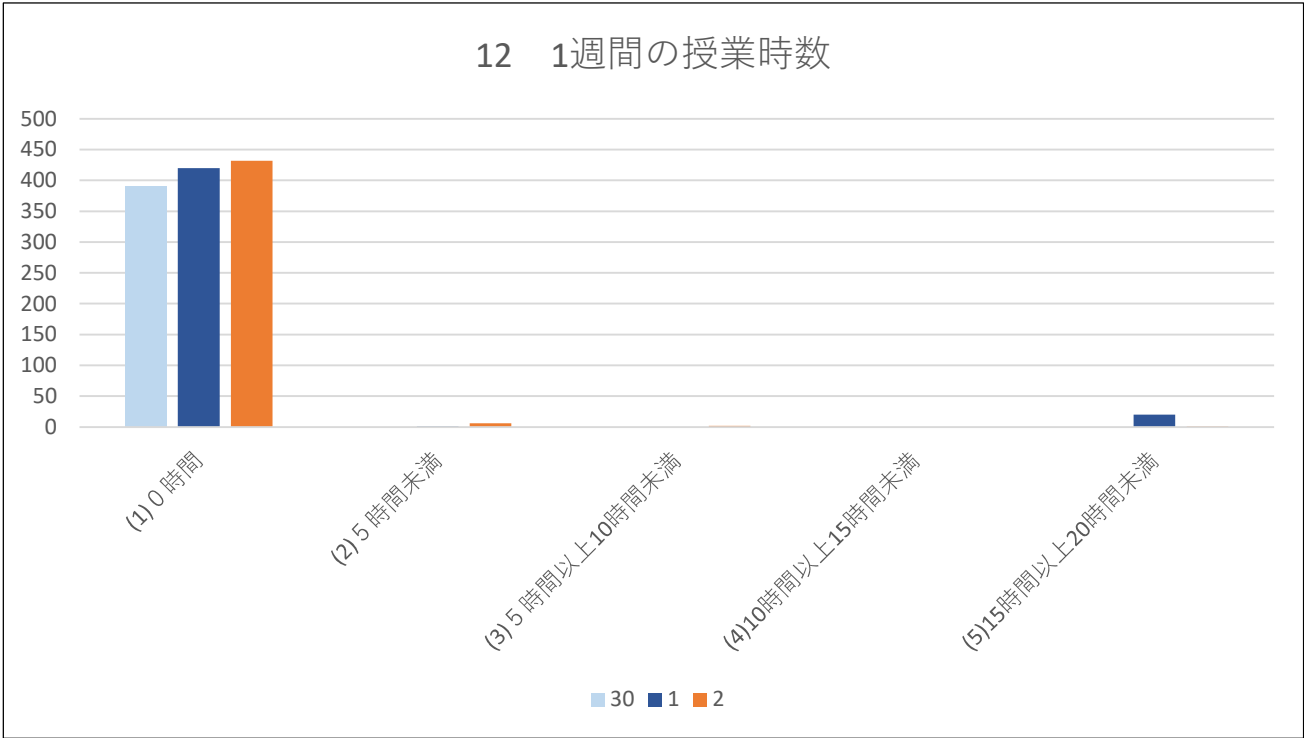
〈分析・考察〉

学校事務の共同実施の地域も増え、また、副校長補佐などの会計年度職員の配置も広がり、副校長の業務の事務職員等への移行が進んでいると推察される。

12 時間割に位置づけられた1週間の授業の持ち時数は何時間ですか

設問	30	1	2
(1)0時間	391	420	432
(2)5時間未満	0	1	6
(3)5時間以上10時間未満	0	0	2
(4)10時間以上15時間未満	0	0	0
(5)15時間以上20時間未満	0	20	1

391 441 441

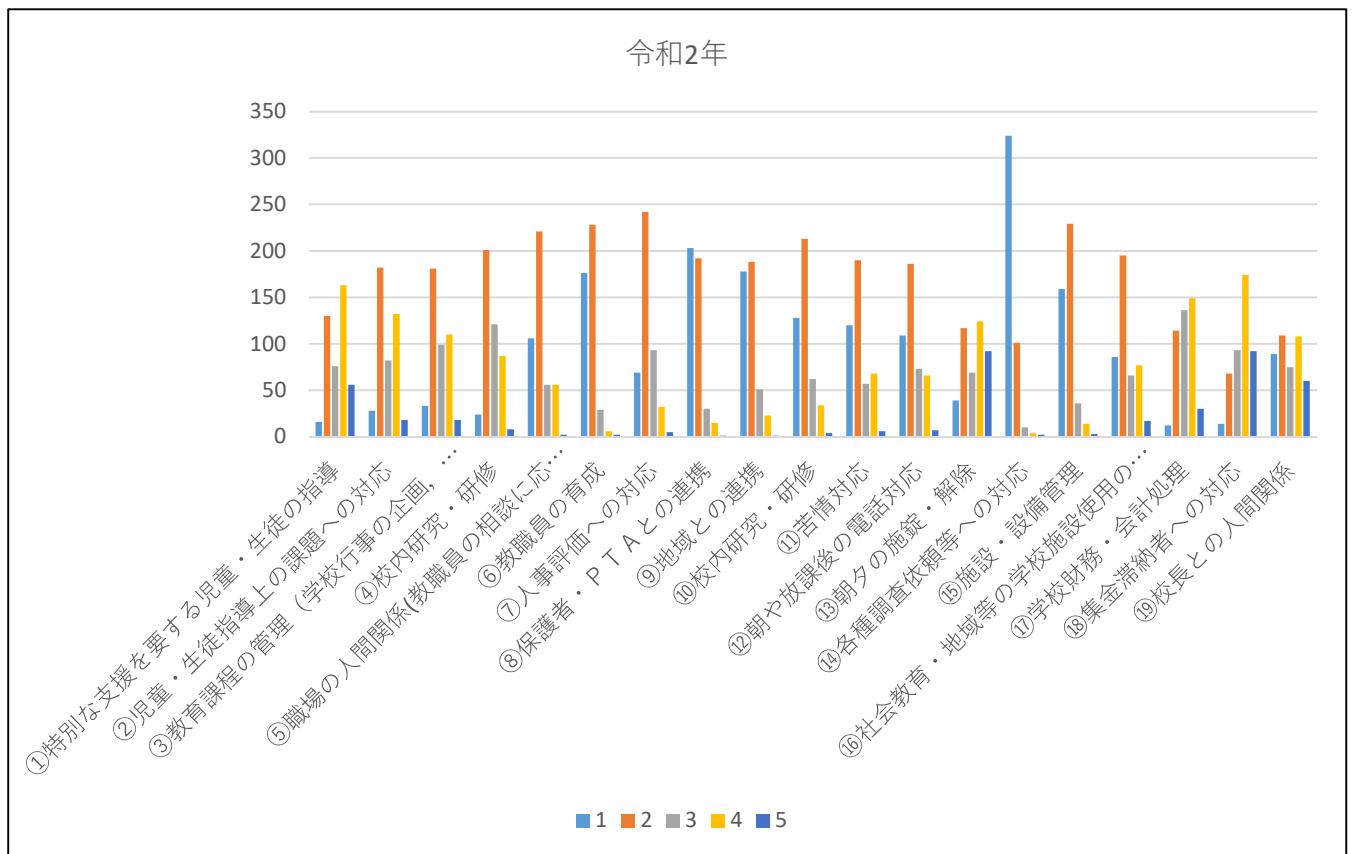
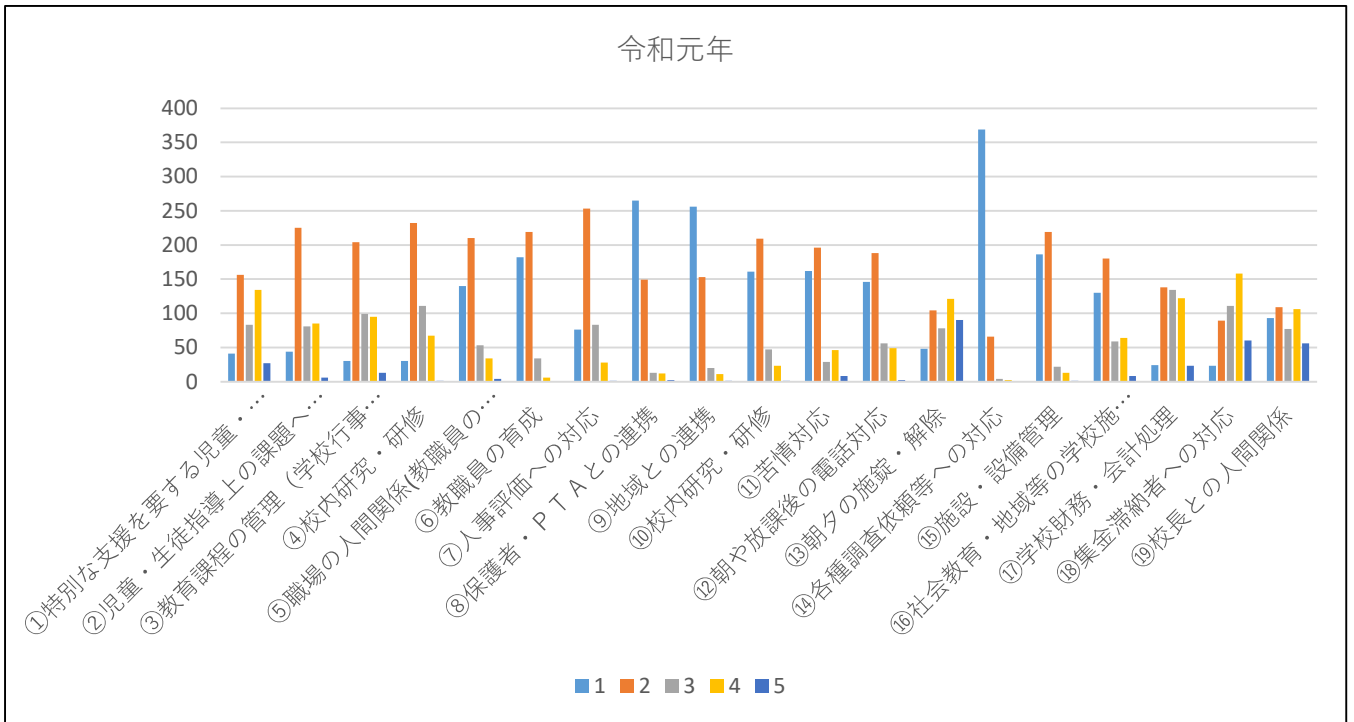


〈分析・考察〉

授業を持っていない場合がほとんど(約98%)である。「15時間以上20時間未満」については、昨年度よりも大幅に減ったが、まだ該当者がいる。「5時間未満」が一番多いことから、少ない時数を持ってくれる講師がなかなか見つからない現状があると推察される。

13 あなたが、主に時間と労力を費やしている職務について、五段階の中で、最も当てはまる番号を入力してください。

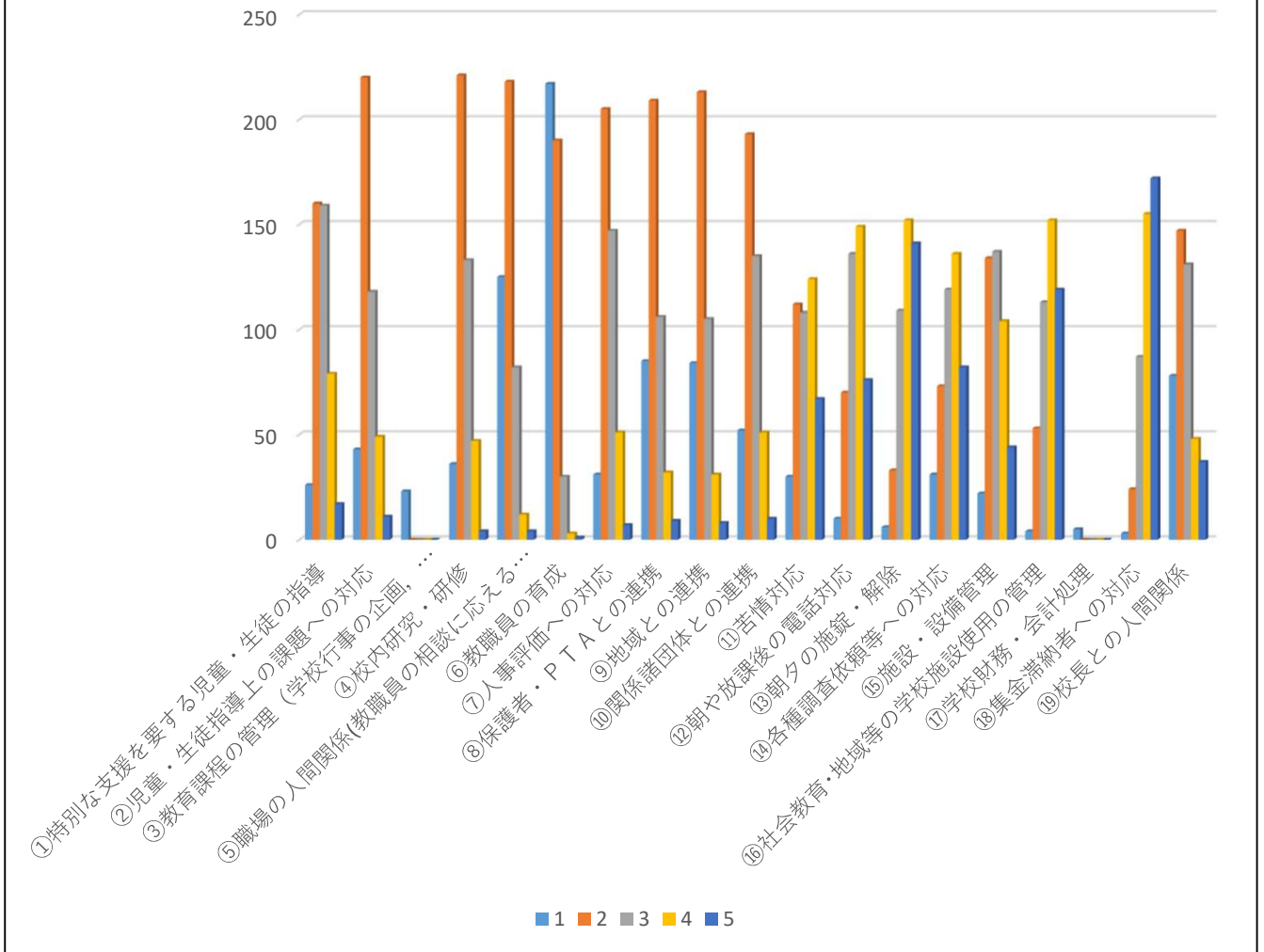
1とてもそうである 2ある程度そうである 3どちらともいえない 4あまりそうでない 5全くそうでない 令和元年						2				
設 問	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
①特別な支援を要する児童・生徒の指導	41	156	83	134	27	16	130	76	163	56
②児童・生徒指導上の課題への対応	44	225	81	85	6	28	182	82	132	18
③教育課程の管理(学校行事の企画、 月予定の作成など)	30	204	99	95	13	33	181	99	110	18
④校内研究・研修	30	232	111	67	1	24	201	121	87	8
⑤職場の人間関係(教職員の相談に応える ことを含む)	140	210	53	34	4	106	221	56	56	2
⑥教職員の育成	182	219	34	6	0	176	228	29	6	2
⑦人事評価への対応	76	253	83	28	1	69	242	93	32	5
⑧保護者・PTAとの連携	265	149	13	12	2	203	192	30	15	1
⑨地域との連携	256	153	20	11	1	178	188	51	23	1
⑩校内研究・研修	161	209	47	23	1	128	213	62	34	4
⑪苦情対応	162	196	29	46	8	120	190	57	68	6
⑫朝や放課後の電話対応	146	188	56	49	2	109	186	73	66	7
⑬朝夕の施錠・解除	48	104	78	121	90	39	117	69	124	92
⑭各種調査依頼等への対応	369	66	4	2	0	324	101	10	4	2
⑮施設・設備管理	186	219	22	13	1	159	229	36	14	3
⑯社会教育・地域等の学校施設使用の管理	130	180	59	64	8	86	195	66	77	17
⑰学校財務・会計処理	24	138	134	122	23	12	114	136	149	30
⑱集金滞納者への対応	23	89	111	158	60	14	68	93	174	92
⑲校長との人間関係	93	109	77	106	56	89	109	75	108	60



〈分析・考察〉

「時間と労力を費やしている職務」の第1位は、「⑭各種調査依頼等への対応」に変わりはない。しかし、全体的にどの項目もグラフが右に動いている傾向が見られる。「働き方改革」の成果が出ていると推察される。

14 副校長・教頭としてやりがいを感じる職務について五段階の中で、最も当てはまる番号を入力してください。										
1とてもそうである 2ある程度そうである 3どちらともいえない 4あまりそうでない 5全くそうでない						2				
設 問						1	2	3	4	5
①特別な支援を要する児童・生徒の指導						26	160	159	79	17
②児童・生徒指導上の課題への対応						43	220	118	49	11
③教育課程の管理(学校行事の企画, 月予定の作成など)						23	0	0	0	0
④校内研究・研修						36	221	133	47	4
⑤職場の人間関係(教職員の相談に応えることを含む)						125	218	82	12	4
⑥教職員の育成						217	190	30	3	1
⑦人事評価への対応						31	205	147	51	7
⑧保護者・PTAとの連携						85	209	106	32	9
⑨地域との連携						84	213	105	31	8
⑩関係諸団体との連携						52	193	135	51	10
⑪苦情対応						30	112	108	124	67
⑫朝や放課後の電話対応						10	70	136	149	76
⑬朝夕の施錠・解除						6	33	109	152	141
⑭各種調査依頼等への対応						31	73	119	136	82
⑮施設・設備管理						22	134	137	104	44
⑯社会教育・地域等の学校施設使用の管理						4	53	113	152	119
⑰学校財務・会計処理						5	0	0	0	0
⑱集金滞納者への対応						3	24	87	155	172
⑲校長との人間関係						78	147	131	48	37

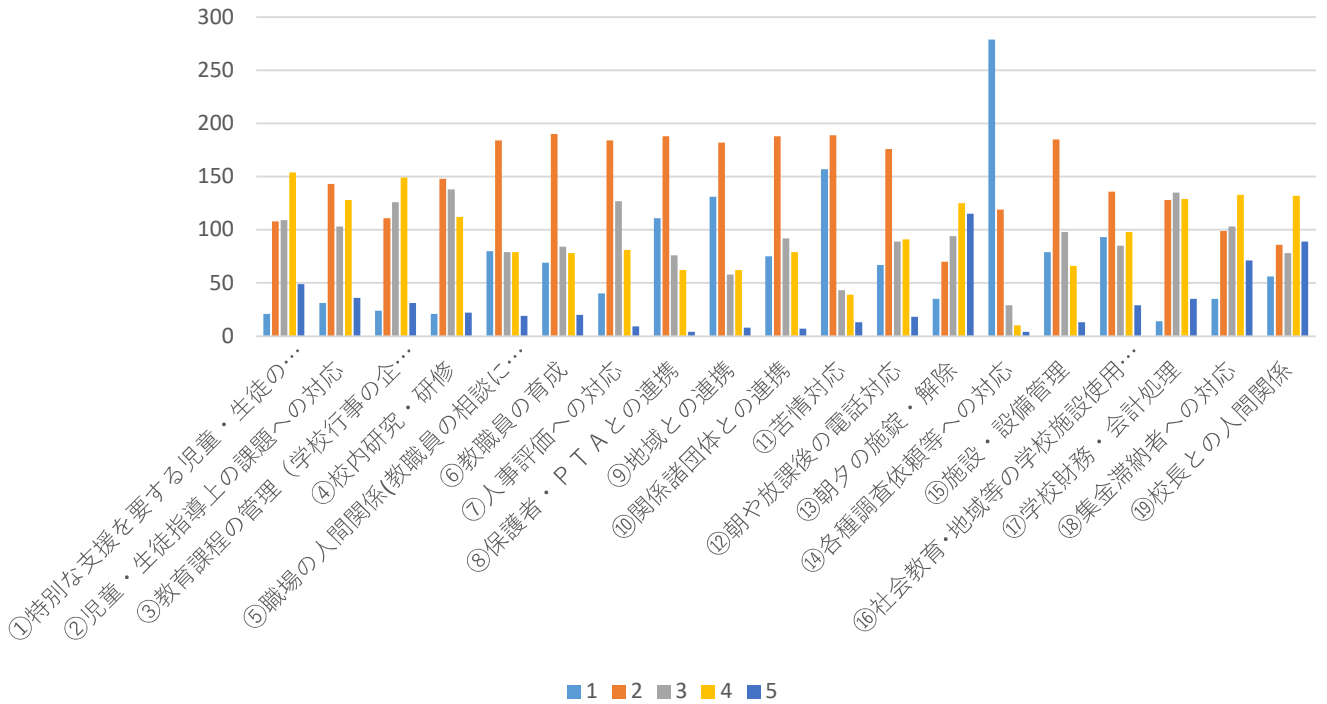


〈分析・考察〉

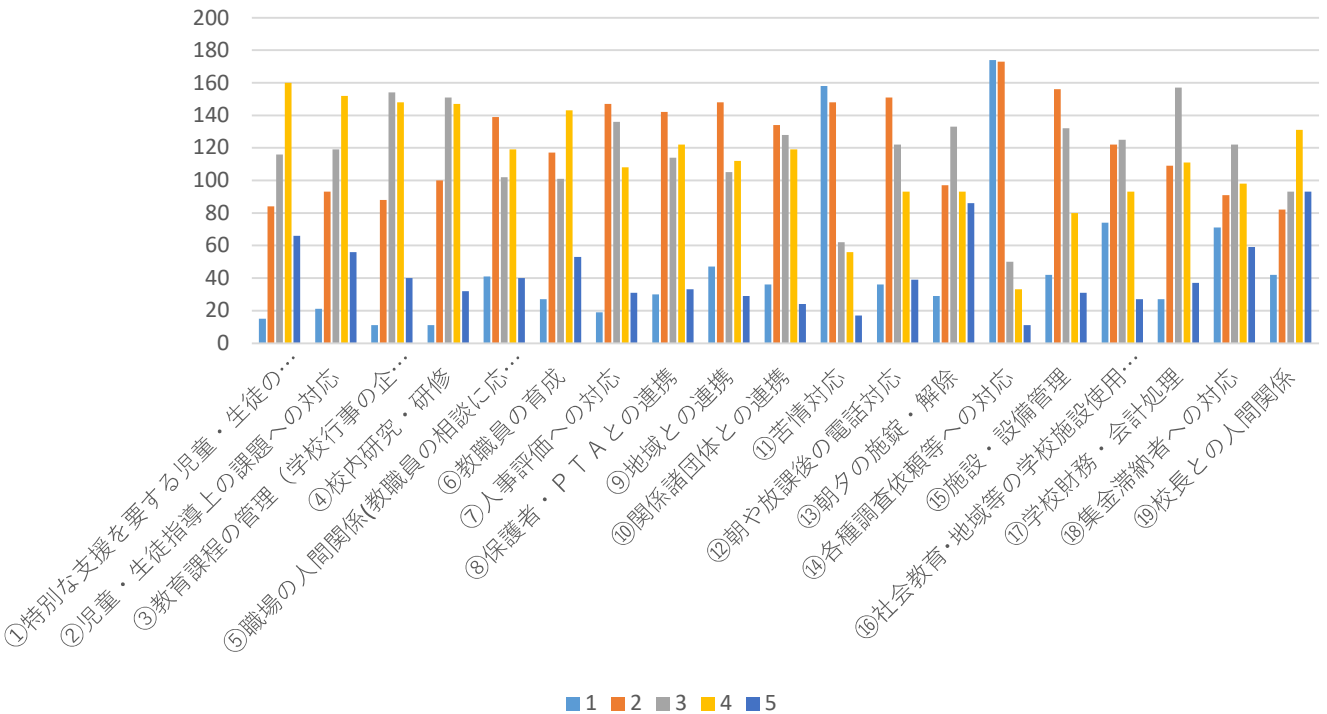
「やりがいを感じる職務」については、1位「教職員の育成」、2位「職場の人間関係(教職員の相談に応えることを含む)」である。また、「やりがいを全く感じない職務」についての1位「集金滞納者への対応」、2位「朝夕の施錠・解除」、3位「社会教育・地域等の学校施設使用の管理」である。「やりがいを全く感じない職務」については、全て学校で行わなければならない仕事ではないので、今後外部への移行を進める必要がある。

15 あなたが、負担(疲労やストレス)に感じる職務について五段階の中で、最も当てはまる番号を入力してください。										
1とてもそうである 2ある程度そうである 3どちらともいえない 4あまりそうでない 5全くそうでない 令和元年						2				
設 問	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
①特別な支援を要する児童・生徒の指導	21	108	109	154	49	15	84	116	160	66
②児童・生徒指導上の課題への対応	31	143	103	128	36	21	93	119	152	56
③教育課程の管理(学校行事の企画, 月予定の 作成など)	24	111	126	149	31	11	88	154	148	40
④校内研究・研修	21	148	138	112	22	11	100	151	147	32
⑤職場の人間関係(教職員の相談に応える ことを含む)	80	184	79	79	19	41	139	102	119	40
⑥教職員の育成	69	190	84	78	20	27	117	101	143	53
⑦人事評価への対応	40	184	127	81	9	19	147	136	108	31
⑧保護者・PTAとの連携	111	188	76	62	4	30	142	114	122	33
⑨地域との連携	131	182	58	62	8	47	148	105	112	29
⑩関係諸団体との連携	75	188	92	79	7	36	134	128	119	24
⑪苦情対応	157	189	43	39	13	158	148	62	56	17
⑫朝や放課後の電話対応	67	176	89	91	18	36	151	122	93	39
⑬朝夕の施錠・解除	35	70	94	125	115	29	97	133	93	86
⑭各種調査依頼等への対応	279	119	29	10	4	174	173	50	33	11
⑮施設・設備管理	79	185	98	66	13	42	156	132	80	31
⑯社会教育・地域等の学校施設使用の管理	93	136	85	98	29	74	122	125	93	27
⑰学校財務・会計処理	14	128	135	129	35	27	109	157	111	37
⑱集金滞納者への対応	35	99	103	133	71	71	91	122	98	59
⑲校長との人間関係	56	86	78	132	89	42	82	93	131	93

15 令和元年



15 令和2年

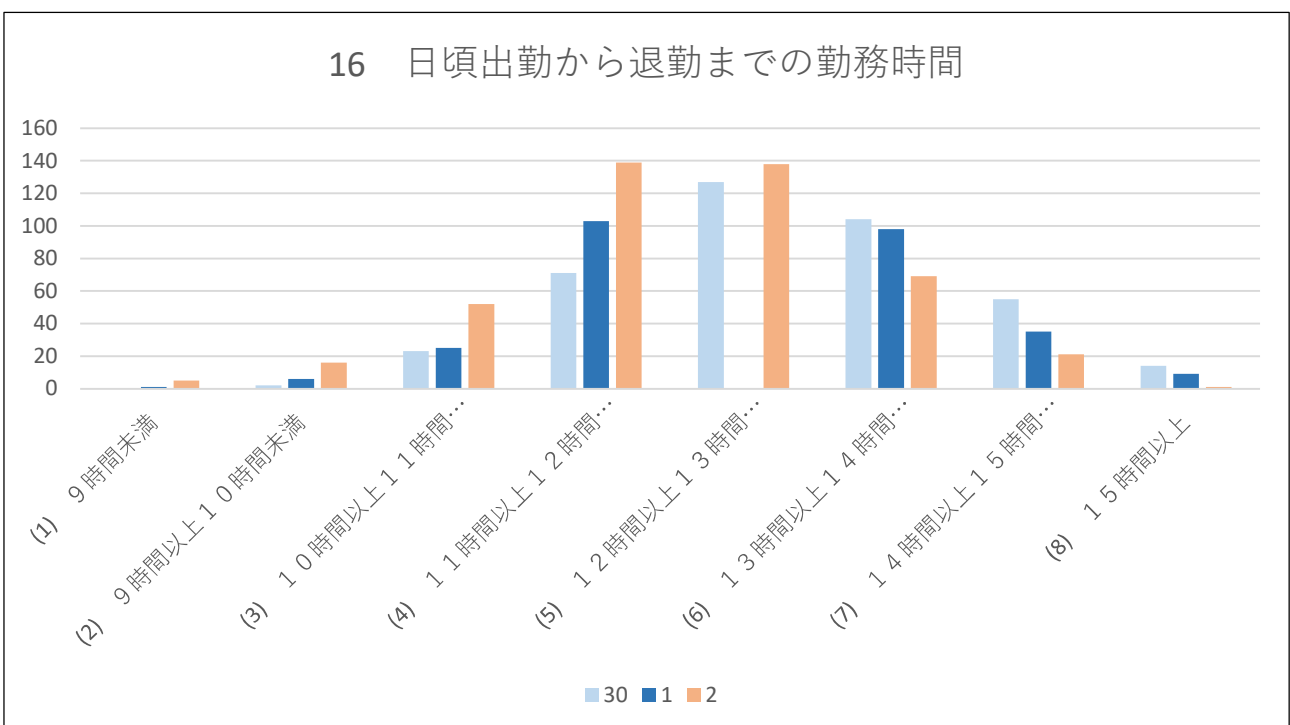


<分析・考察>

負担に感じる職務については、第1位が「⑭各種調査依頼等への対応」、第2位が「⑪苦情対応」は変化がない。しかし、どの項目もグラフが右に動いている傾向が見られる。「働き方改革」の成果が出ていると推察される。

16 行事前や特別な日を除いて、日頃出勤から退勤まで、何時間くらい勤務をしていますか。

設 問	30	1	2
(1) 9時間未満	0	1	5
(2) 9時間以上10時間未満	2	6	16
(3) 10時間以上11時間未満	23	25	52
(4) 11時間以上12時間未満	71	103	139
(5) 12時間以上13時間未満	127	0	138
(6) 13時間以上14時間未満	104	98	69
(7) 14時間以上15時間未満	55	35	21
(8) 15時間以上	14	9	1
	396	277	441

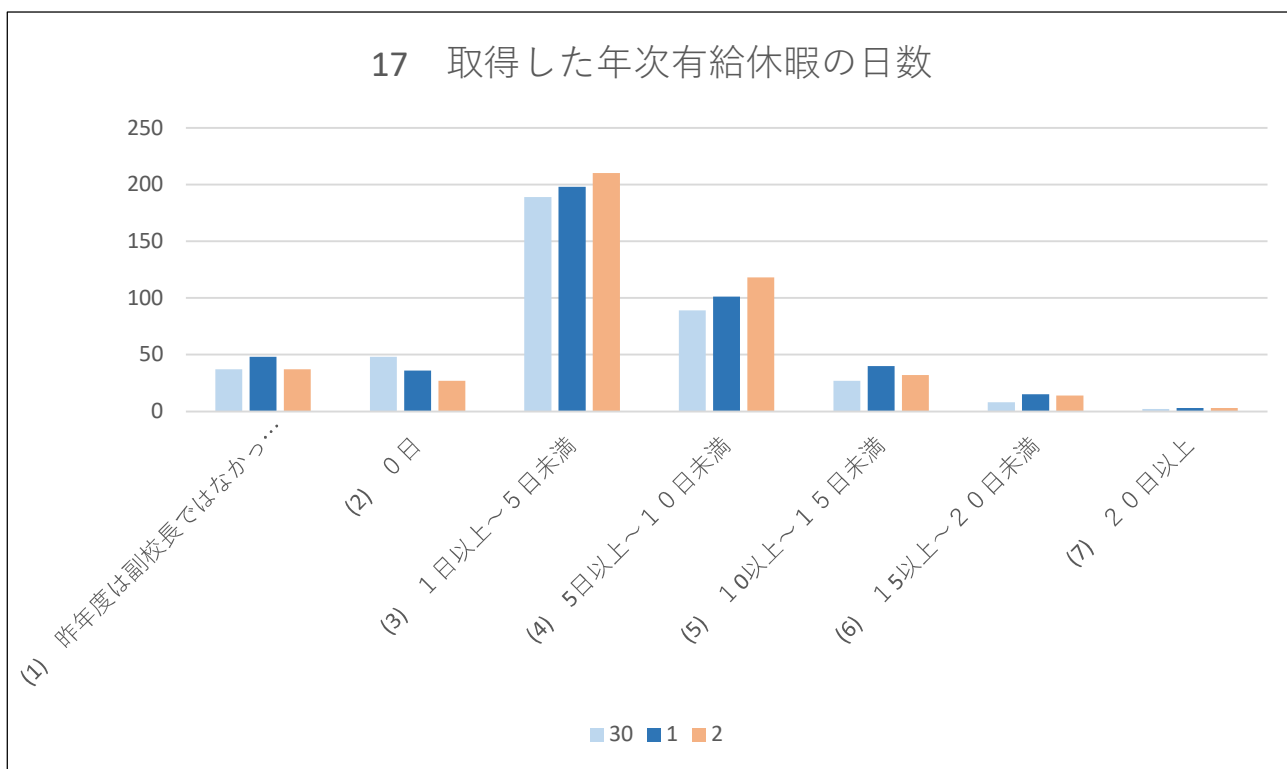


<分析・考察>

昨年、一昨年よりグラフが左に動いているが、63%が「11時間以上13時間未満」に集中し、1%が「9時間未満」であることは問題である。定時退勤にはほど遠い傾向が続いている。

17 昨年度、有給休暇を、何日くらい取得しましたか。新任または、行政からの異動の方は、(1)を選択してください。

設 問	30	1	2
(1) 昨年度は副校長ではなかった(昇任、行政から異動の方)	37	48	37
(2) 0日	48	36	27
(3) 1日以上～5日未満	189	198	210
(4) 5日以上～10日未満	89	101	118
(5) 10日以上～15日未満	27	40	32
(6) 15日以上～20日未満	8	15	14
(7) 20日以上	2	3	3
	400	441	441

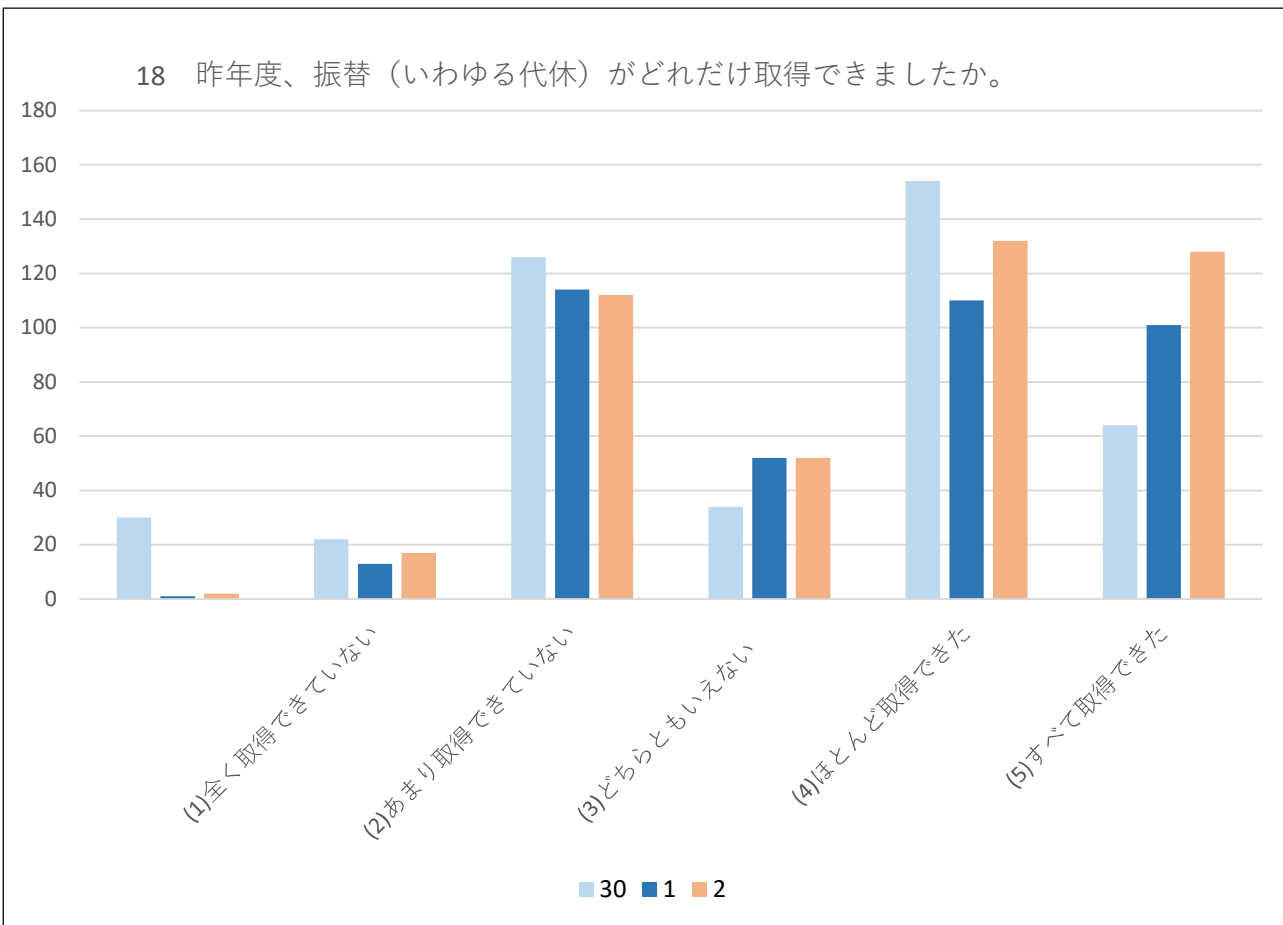


〈分析・分析〉

「5日未満」の取得が約59%と十分に取得できているとはいえない。「取得0日」の割合は減少しているが、改善していない。

18 昨年度、振替(いわゆる代休)がどれだけ取得できましたか。五段階の中で最も当てはまる番号を入力してください

	30	1	2
(1)全く取得できていない	22	13	17
(2)あまり取得できていない	126	114	112
(3)どちらともいえない	34	52	52
(4)ほとんど取得できた	154	110	132
(5)すべて取得できた	64	101	128



〈分析・分析〉

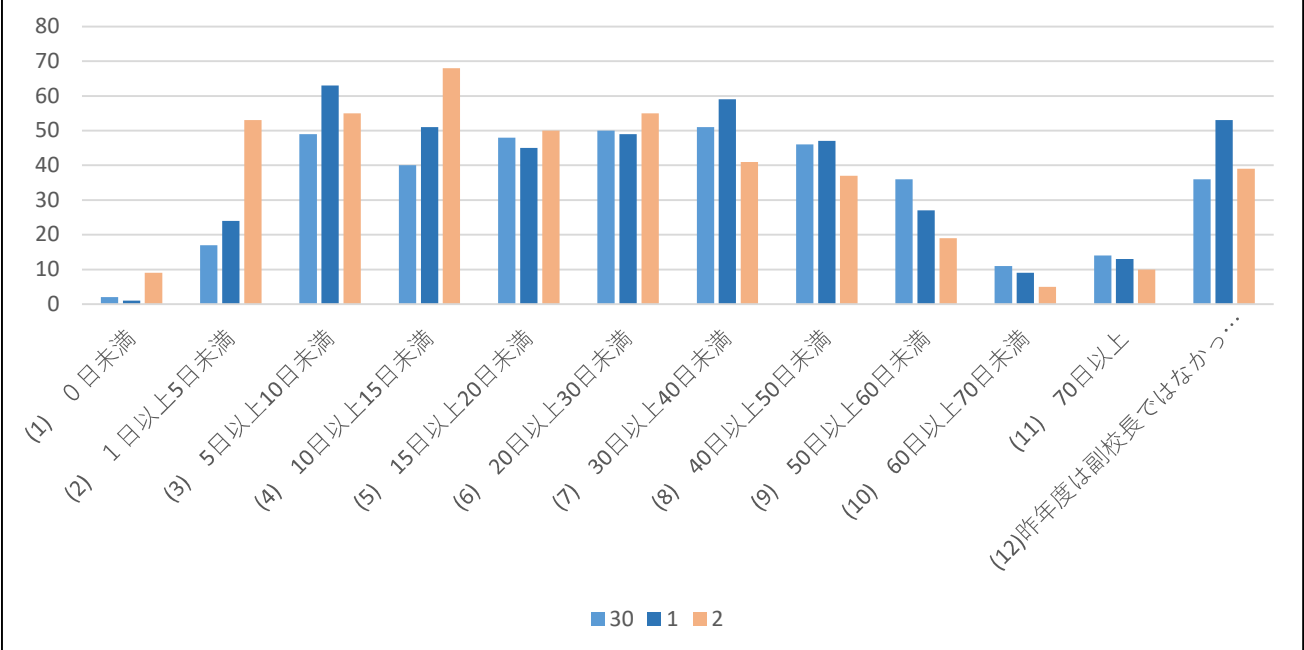
「すべて取得できた」、「ほとんど取得できた」が増えていて、グラフが右に移動している傾向が見られるが、まだまだ取得できない現状がある。

19 昨年度の週休日や祝日に年間で何日くらい学校で仕事をしていましたか。行事等で勤務時間の割振変更がある場合は除いてください。※新任(行政からの異動を含)の方は①を選択して下さい。

設 問	30	1	2
(1) 0日未満	2	1	9
(2) 1日以上5日未満	17	24	53
(3) 5日以上10日未満	49	63	55
(4) 10日以上15日未満	40	51	68
(5) 15日以上20日未満	48	45	50
(6) 20日以上30日未満	50	49	55
(7) 30日以上40日未満	51	59	41
(8) 40日以上50日未満	46	47	37
(9) 50日以上60日未満	36	27	19
(10) 60日以上70日未満	11	9	5
(11) 70日以上	14	13	10
(12)昨年度は副校長ではなかった(新任や行政職からの異動等)	36	53	39

400 441 441

19昨年度の週休日や祝日に年間で何日くらい学校で仕事をしていましたか

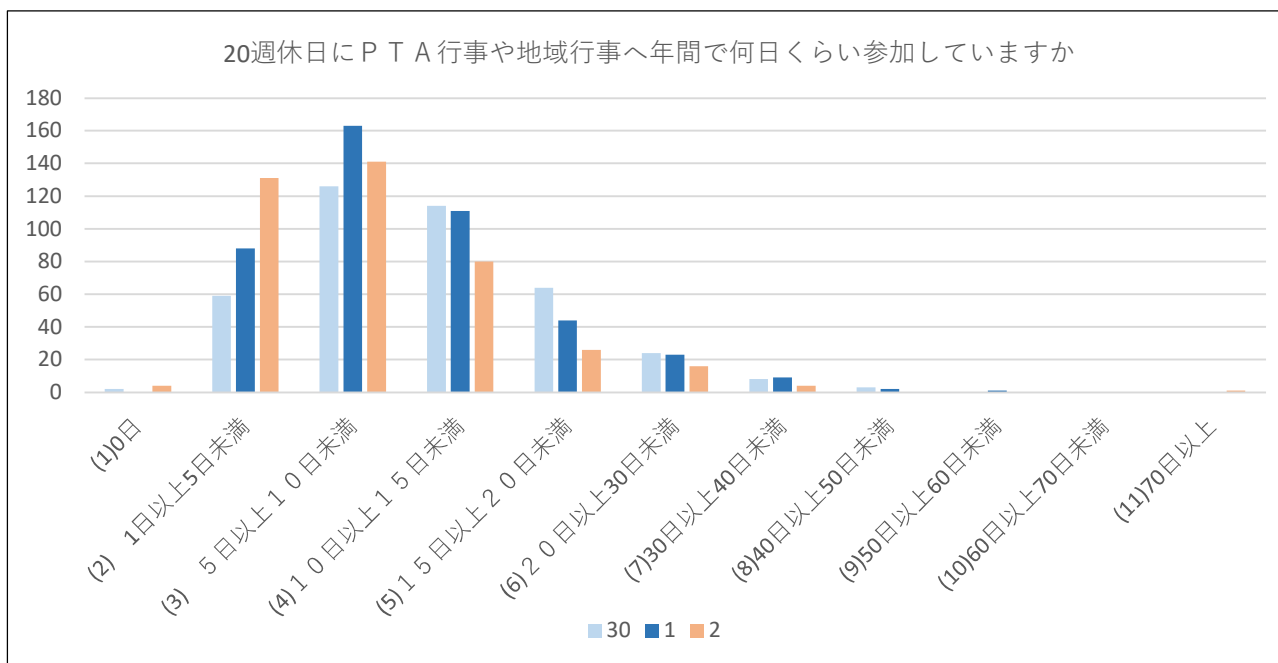


〈分析・考察〉

・5日未満の割合は増加傾向(4.8%→5.7%→14.0%)、50日以上70日未満の割合が減少傾向(11.8%→8.2%→5.4%)となった。しかし、70日以上が毎年10名以上いることは課題である。

20 週休日にPTA行事や地域行事へ年間で何日くらい参加していますか。			
設問	30	1	2
(1)0日	2	0	4
(2) 1日以上5日未満	59	88	131
(3) 5日以上10日未満	126	163	141
(4)10日以上15日未満	114	111	80
(5)15日以上20日未満	64	44	26
(6)20日以上30日未満	24	23	16
(7)30日以上40日未満	8	9	4
(8)40日以上50日未満	3	2	0
(9)50日以上60日未満	0	1	0
(10)60日以上70日未満	0	0	0
(11)70日以上	0	0	1
(12)昨年度は、副校長・教頭ではなかった(新任や行政職からの異動等)			38

400 441 441

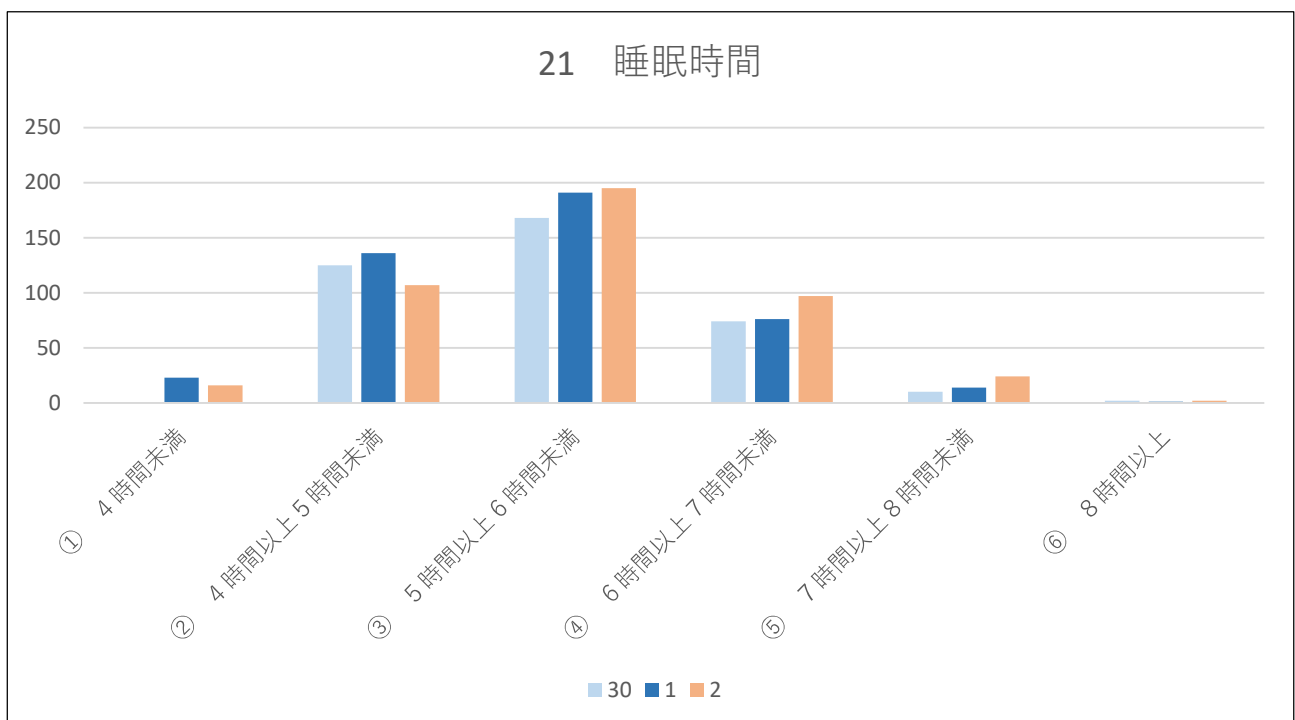


〈分析・考察〉

・5日未満の割合は増加傾向(15.3%→20.0%→30.6%)、15日以上の割合が減少傾向(24.8%→17.9%→10.7%)となった。

21 あなたの睡眠時間はどのくらいですか。			
設 問	30	1	2
① 4時間未満	0	23	16
② 4時間以上5時間未満	125	136	107
③ 5時間以上6時間未満	168	191	195
④ 6時間以上7時間未満	74	76	97
⑤ 7時間以上8時間未満	10	14	24
⑥ 8時間以上	2	1	2

379 441 441



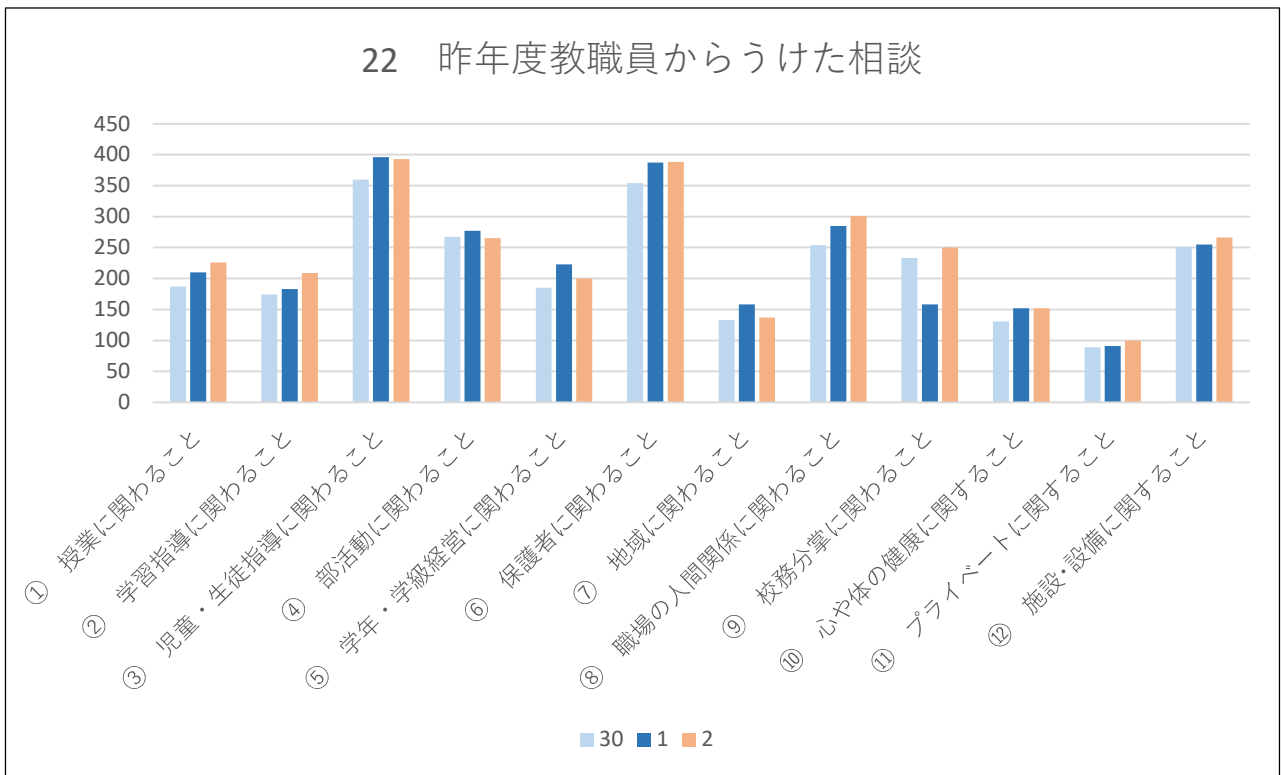
〈分析・考察〉

・過去3年間通して、5時間未満が多くみられる。(31.3%→36.1%→27.9%)

22 あなたは、昨年度教職員からどんな相談を受けましたか。複数回答可。
 ※新任の方は、4月から現在までの経験等からお答えください。

設 問	30	1	2
① 授業に関わること	187	210	226
② 学習指導に関わること	174	183	209
③ 児童・生徒指導に関わること	360	396	393
④ 部活動に関わること	267	277	265
⑤ 学年・学級経営に関わること	185	223	200
⑥ 保護者に関わること	354	387	388
⑦ 地域に関わること	133	158	137
⑧ 職場の人間関係に関わること	254	285	301
⑨ 校務分掌に関わること	233	158	250
⑩ 心や体の健康に関すること	131	152	152
⑪ プライベートに関すること	89	91	100
⑫ 施設・設備に関すること	251	255	266

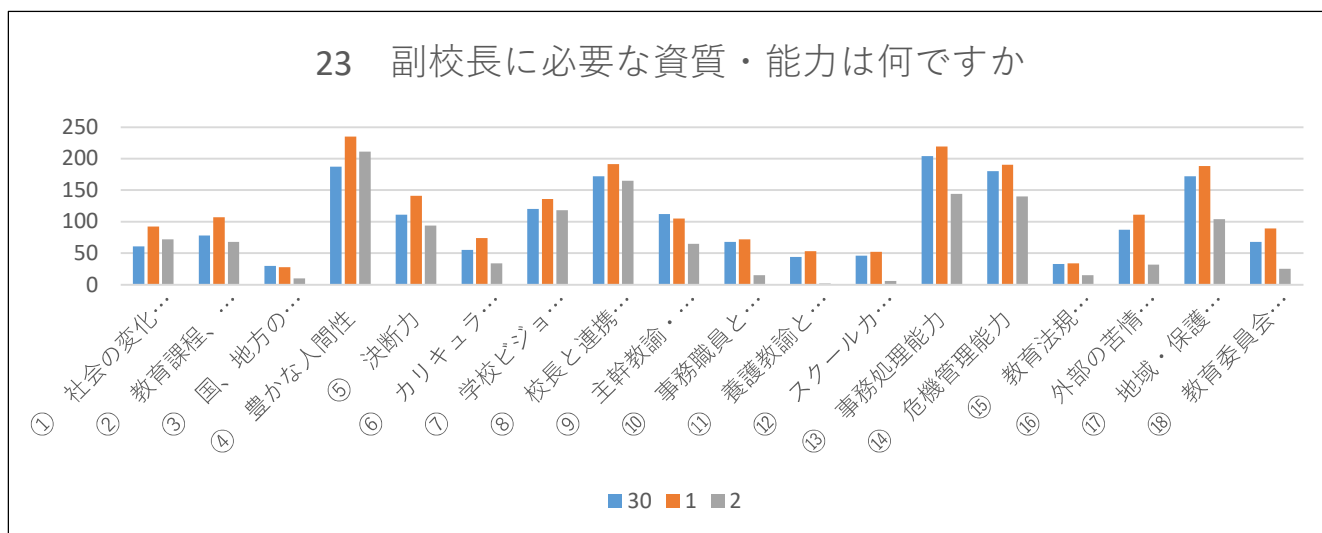
2618 2775 2887



<分析・考察>

・経年変化で著しいものは見られない。「児童・生徒指導に関わること」「保護者に関わること」「職場の人間関係に関わること」が上位3件であり、他者とのかわりに関する相談が多い。

23 副校長に必要な資質・能力は何ですか。(主なものを3つ選択してください)			
設問	30	1	2
① 社会の変化を踏まえた教育に関する信念や理念	61	92	72
② 教育課程、教科指導、生徒指導等の専門性	78	107	68
③ 国、地方の教育施策に関する知識	30	28	10
④ 豊かな人間性	187	235	211
⑤ 決断力	111	141	94
⑥ カリキュラム・マネジメント力(授業改善を含)	55	74	34
⑦ 学校ビジョン実現のための組織マネジメント(業務改善を含)	120	136	118
⑧ 校長と連携する力	172	191	165
⑨ 主幹教諭・主任等と連携する力	112	105	65
⑩ 事務職員と連携する力	68	72	15
⑪ 養護教諭と連携する力	44	53	2
⑫ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等 専門スタッフを生かす力	46	52	6
⑬ 事務処理能力	204	219	144
⑭ 危機管理能力	180	190	140
⑮ 教育法規(勤務・服務等を含む)に関する知識・法令遵守の徹底	33	34	15
⑯ 外部の苦情処理能力	87	111	32
⑰ 地域・保護者と連携・協働する力	172	188	104
⑱ 教育委員会と渉外・調整・連携する力	68	89	25



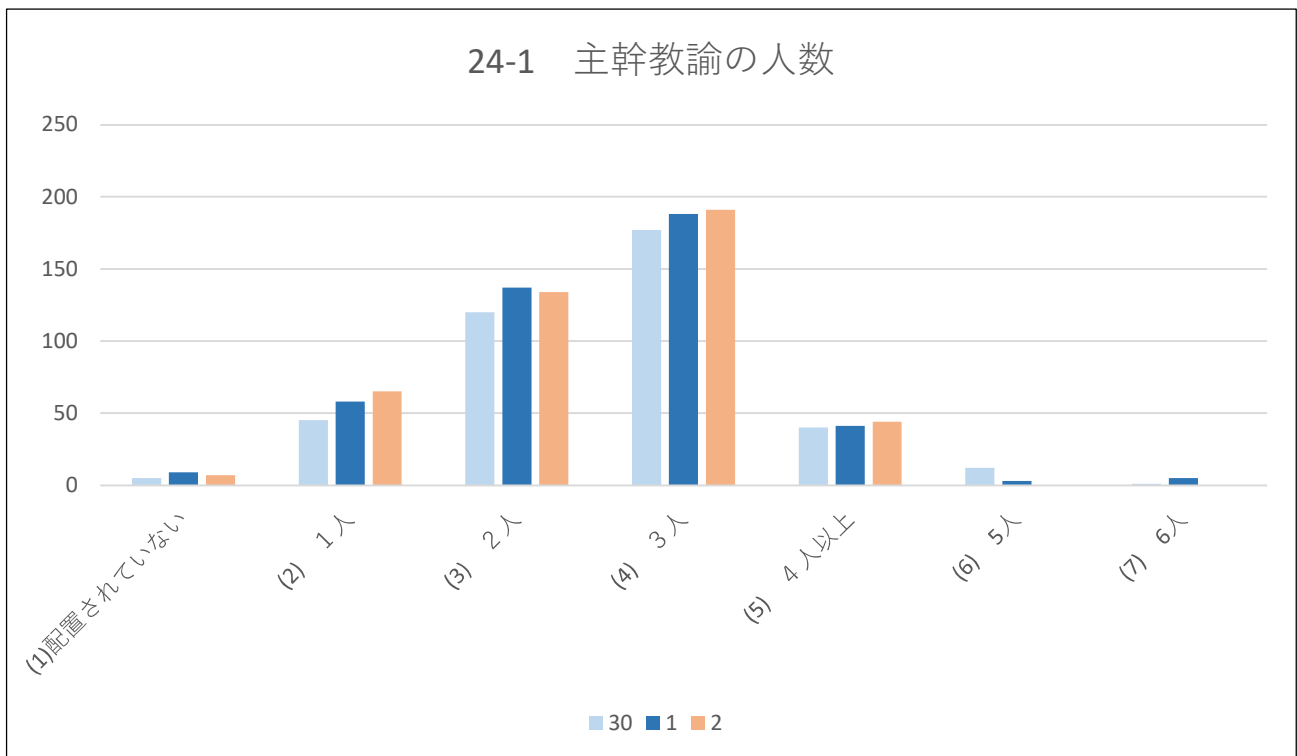
〈分析・考察〉

・過去3年間通して概ね同様の傾向である。「豊かな人間性」が最上位であり、その他上位は連携する力(「校長と連携する力」「地域・保護者と連携・協働する力」と能力(「事務処理能力」「危機管理能力)」となっている。

24-1 あなたの学校に主幹教諭は何人配置されていますか。

設 問	30	1	2
(1)配置されていない	5	9	7
(2) 1人	45	58	65
(3) 2人	120	137	134
(4) 3人	177	188	191
(5) 4人以上	40	41	44
(6) 5人	12	3	
(7) 6人	1	5	

400 441 441



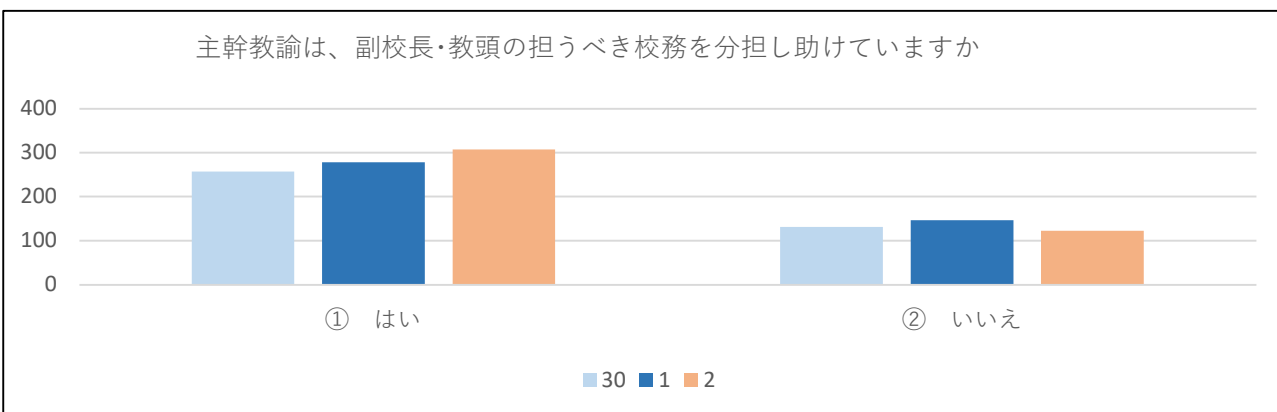
〈分析・考察〉

・3年間通して概ね同じ傾向にあり、多くの学校で2～3名の配置となっている。また、1名以下の学校が15%程度(12.5%→15.2%→16.3%)ある。

24-2主幹教諭が配置されている方のみお答え下さい

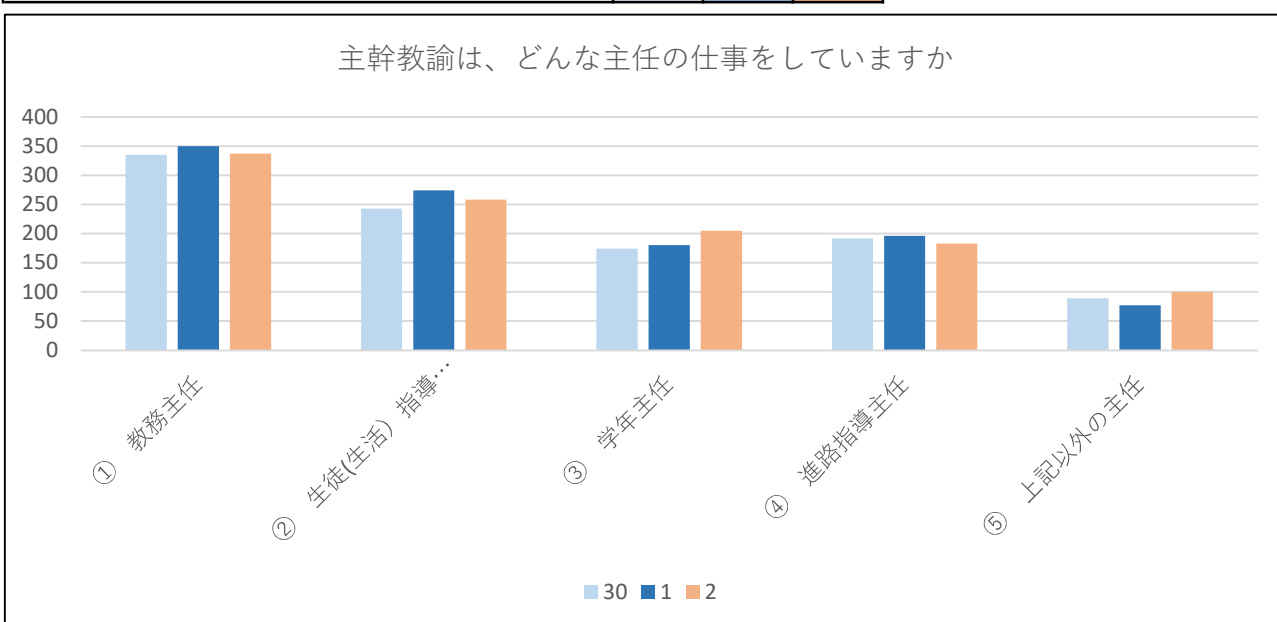
(1)主幹教諭は、副校長・教頭の担うべき校務を分担し助けていますか

設問	30	1	2
① はい	257	278	307
② いいえ	131	146	122



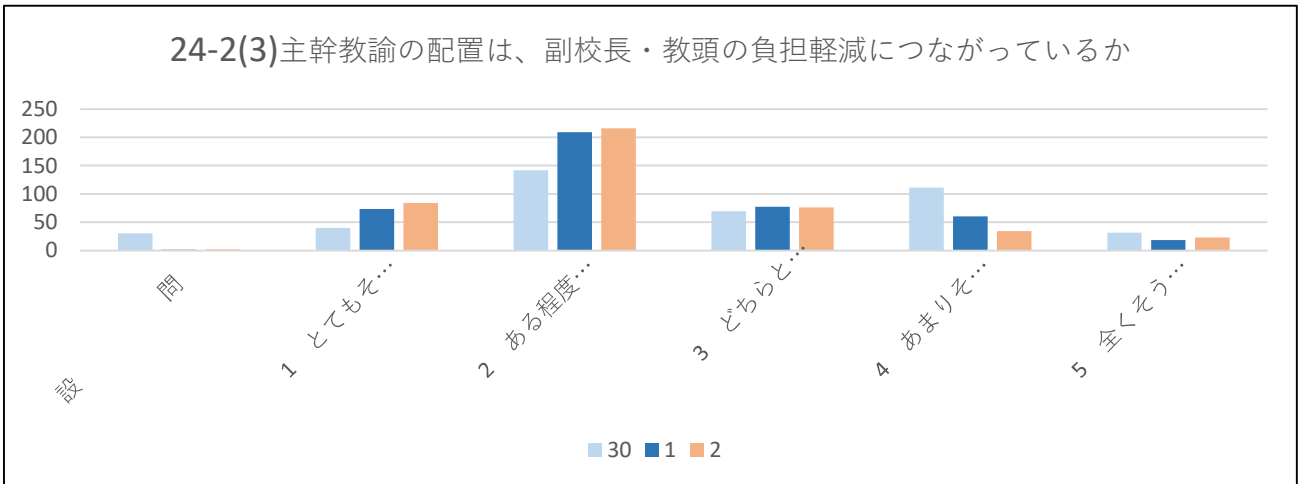
(2)主幹教諭は、どんな主任の仕事をしていますか(複数配置の学校は該当のもの全てを選んで下さい)

設問	30	1	2
① 教務主任	335	350	337
② 生徒(生活)指導主事(主任)	243	274	258
③ 学年主任	174	180	205
④ 進路指導主任	192	196	183
⑤ 上記以外の主任	89	77	100



(3)主幹教諭の配置は、副校長・教頭の負担軽減につながっていますか

設 問	30	1	2
1 とてもそうである	40	73	84
2 ある程度そうである	142	209	216
3 どちらともいえない	69	77	76
4 あまりそうでない	111	60	34
5 全くそうでない	31	18	23

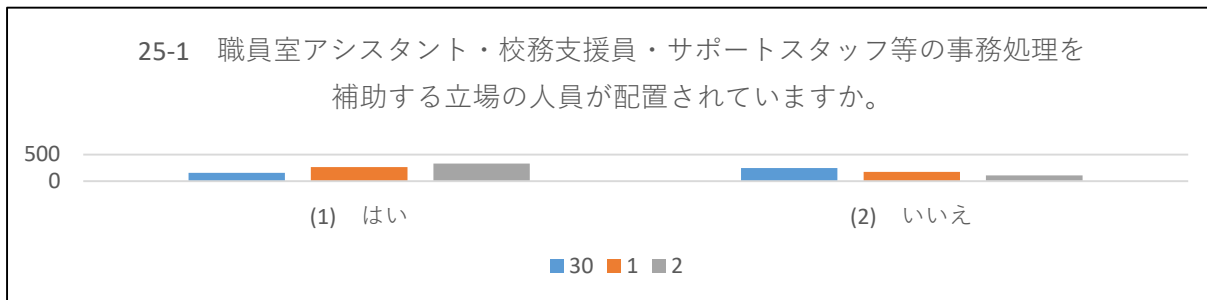


〈分析・考察〉

- 3年間通して、概ね同じ傾向にあり、「副校長を助けている」割合が65～70%程度(66.2%→65.6%→71.6%)となっている。また担っている仕事は、教務主任や生活指導主任の割合が多く、次いで学年主任・進路指導主任となっている。
- 主幹教諭の配置が副校長の負担軽減となっているとの回答は、「とても・ある程度そうである」の割合が増加(46.3%→64.5%→69.3%)し、「全く・あまりそうでない」の割合が減少(35.6%→17.8%→13.2%)している。

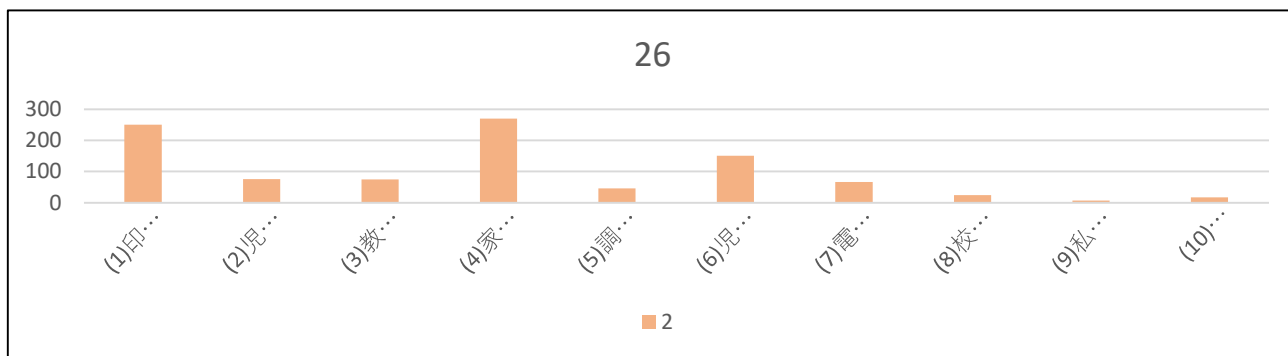
25 職員室アシスタント・校務支援員・サポートスタッフ等の事務処理を補助する立場の人員が配置されていますか。

設問	30	1	2
(1) はい	155	265	333
(2) いいえ	245	176	108



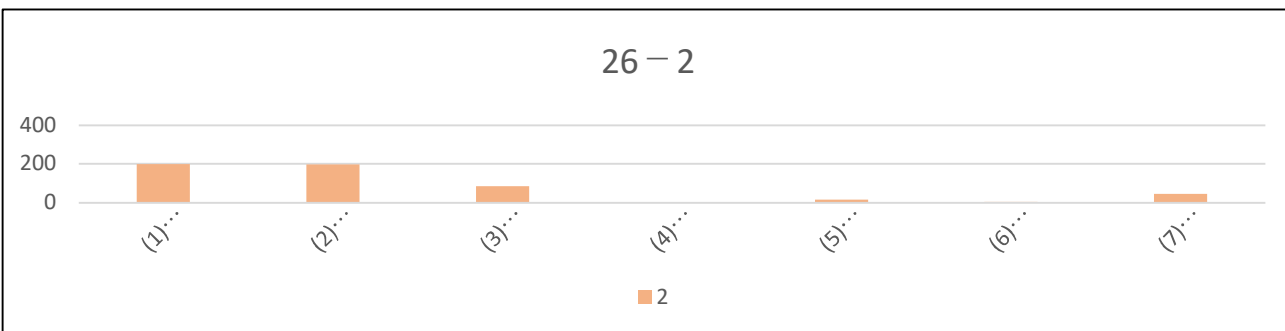
26-1 25で(1)と答えた方のみお答えください。貴校に配置されている、職員室アシスタント、校務支援員、サポートスタッフ等の事務処理を補佐する立場の人(以下校務支援スタッフ)は、主にどのような職務を担っていますか。次の項目の中で主な職務内容に近いものを3つお選びください。

設問	2
(1)印刷等、教材づくりの補助	250
(2)児童・生徒の提出物や学習プリント等のチェック	76
(3)教室や資料室等の整理、教材や用具の準備等	75
(4)家庭への配布物の印刷や仕分け等	269
(5)調査や提出物等の作成・集計	46
(6)児童・生徒や教職員への配布物の整理等、校務事務の補佐	150
(7)電話対応や来客等、外部との対応	66
(8)校舎・教具等の整備・小修繕等、施設のフォロー	24
(9)私費会計の処理等の補佐	7
(10)その他	17



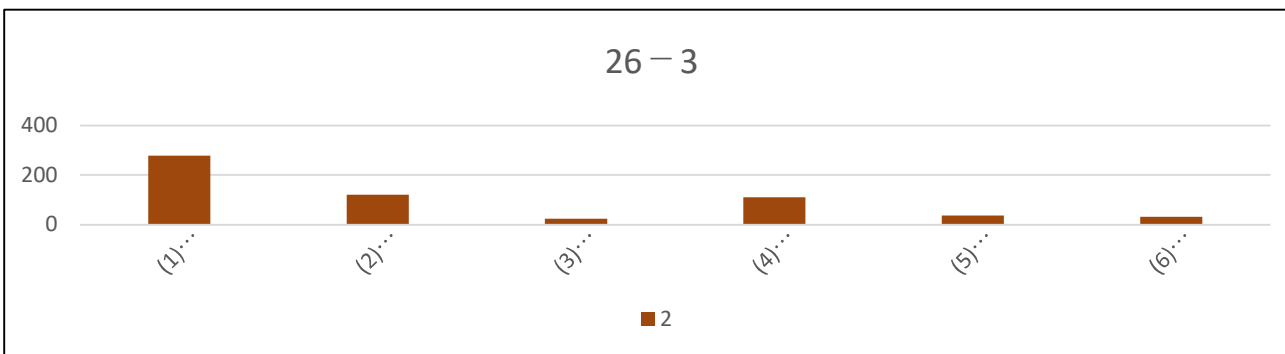
26-2 副校長・教頭の立場から見て、校務支援スタッフの配置は、教職員にとってどのような効果が図られましたか。

設問	2
(1)教材研究の時間が増えた	198
(2)児童・生徒と関わる時間が増えた	196
(3)学年会等、会議や打合せの時間が増えた	84
(4)在校時間が短くなった	0
(5)授業の質が向上した	15
(6)児童・生徒の学力が高まった	3
(7)その他	45



26-3 校務支援スタッフの配置は、副校長・教頭にとって職務上どのような効果が図られましたか。

設問	2
(1)事務的な仕事が減った	278
(2)教育課程の編成等、副校長・教頭としての職務に充てる時間が増えた	121
(3)児童・生徒と関わる時間が増えた	23
(4)教職員の育成等に充てる時間が増えた	110
(5)自分自身の研修や研究の時間が増えた	36
(6)その他	31



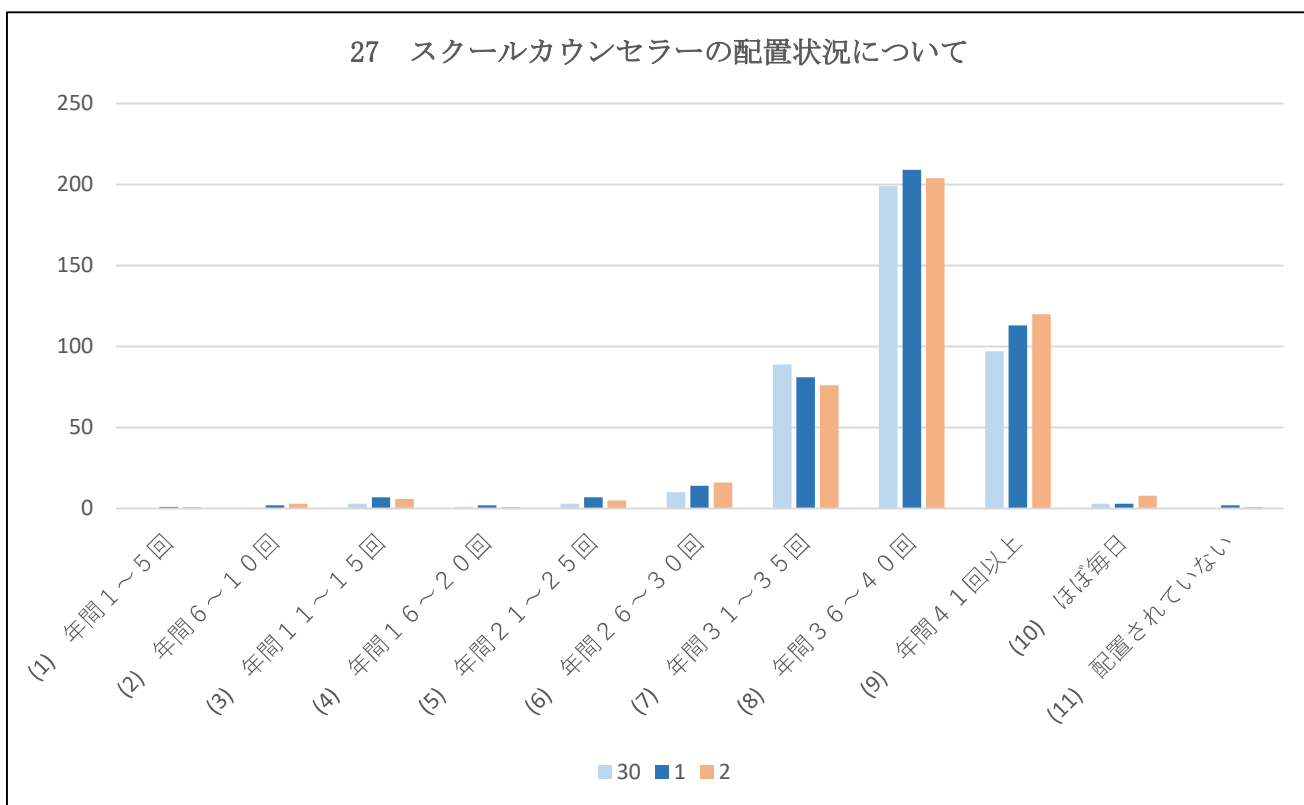
〈分析・考察〉

・過去3年間で、配置が倍増し、教職員・副校長の職務軽減となっている。

27 スクールカウンセラーの配置状況についてお答え下さい

設問	30	1	2
(1) 年間1～5回	0	1	1
(2) 年間6～10回	0	2	3
(3) 年間11～15回	3	7	6
(4) 年間16～20回	1	2	1
(5) 年間21～25回	3	7	5
(6) 年間26～30回	10	14	16
(7) 年間31～35回	89	81	76
(8) 年間36～40回	199	209	204
(9) 年間41回以上	97	113	120
(10) ほぼ毎日	3	3	8
(11) 配置されていない	0	2	1

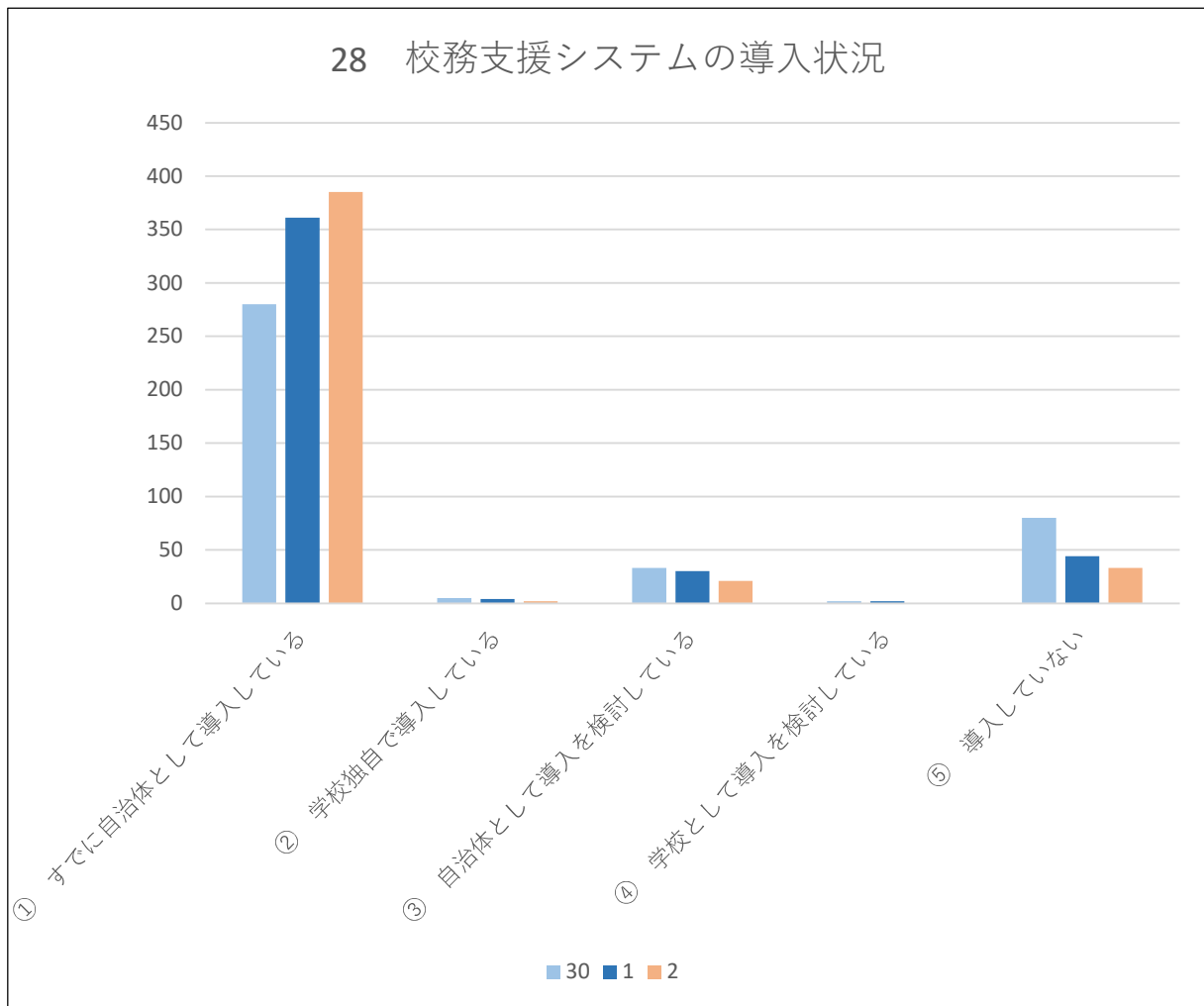
405 441 441



〈分析・考察〉

都内の全校にスクールカウンセラーが配置されている。30年度同様、36～40日が最も多い。都の配置に加え、区市町村の予算によって、41日以上、また、ほぼ毎日という学校もあった。また、新型コロナウイルス対応での追加配置も考えられる。いじめ防止・不登校・自殺防止等、スクールカウンセラーの果たす役割は大きく、特別支援コーディネーターとの連携も考えられ、一層連携・有効活用していきたい。

28 校務支援システムの導入状況についてお答え下さい			
設問	30	1	2
① すでに自治体として導入している	280	361	385
② 学校独自で導入している	5	4	2
③ 自治体として導入を検討している	33	30	21
④ 学校として導入を検討している	2	2	0
⑤ 導入していない	80	44	33
	400	441	441



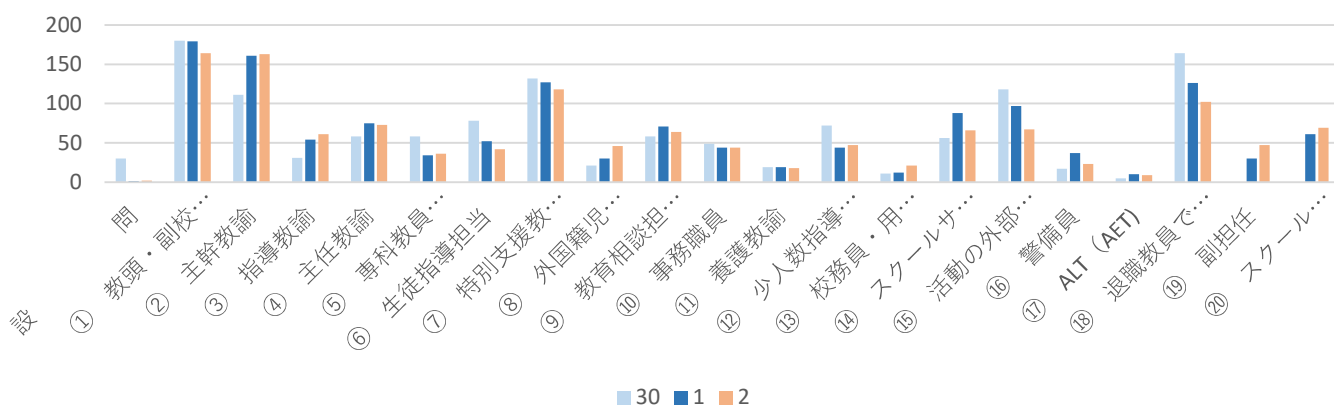
〈分析・考察〉

働き方改革を推進するうえで欠かせない校務支援システムの導入は多くの自治体で進んでいる。まだ、導入されていない学校もある。導入されているが、システムや運用の違いにより対応に難しさを感じることもある。

29 教職員が配置されるとしたら、どんな立場の教職員を求めますか。上位3つをお選びください。

設 問	30	1	2
① 教頭・副校長(複数配置にする)	180	179	164
② 主幹教諭	111	161	163
③ 指導教諭	31	54	61
④ 主任教諭	58	75	73
⑤ 専科教員(理科, 音楽, 外国語など)	58	34	36
⑥ 生徒指導担当	78	52	42
⑦ 特別支援教育担当	132	127	118
⑧ 外国籍児童・生徒の教育担当	21	30	46
⑨ 教育相談担当・スクールカウンセラー	58	71	64
⑩ 事務職員	49	44	44
⑪ 養護教諭	19	19	18
⑫ 少人数指導(習熟度別, T・Tなど)担当	72	44	47
⑬ 校務員・用務員	11	12	21
⑭ スクールサポーター(印刷等を補助する方)	56	88	66
⑮ 活動の外部指導員	118	97	67
⑯ 警備員	17	37	23
⑰ ALT(AET)	5	10	9
⑱ 退職教員で副校長・教頭を補佐する立場	164	126	102
⑲ 副担任		30	47
⑳ スクールソーシャルワーカー		61	69

29教職員が配置されるとしたら、どんな立場の教職員を求めますか。

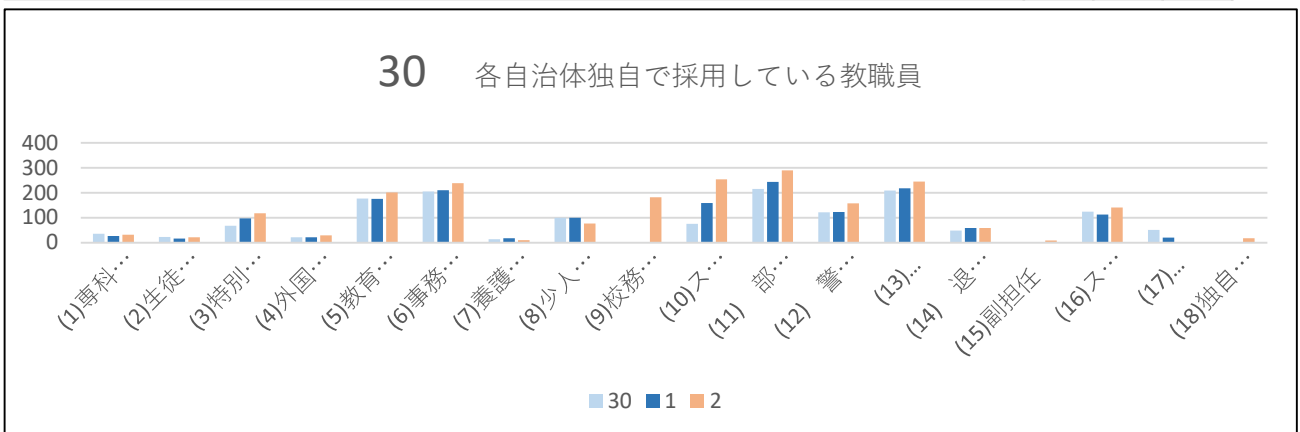


〈分析・考察〉

副校長の業務を補佐する立場の採用を期待する意見が多いことがわかる。そのほかには特別支援教育に関する人的配慮を必要としていることが見て取れる。携わる質や量、非常に多くの時間が必要にな業務に配置を希望していると考えられる。

30 各自治体(市区町村教委等)独自で採用している教職員として、どんな立場の方が配置されていますか。(複数回答可)

設問	30	1	2
(1)専科教員(理科, 音楽, 外国語など)	35	27	32
(2)生徒指導担当	23	16	21
(3)特別支援教育担当	67	97	118
(4)外国籍児童・生徒の教育担当	21	21	29
(5)教育相談担当・スクールカウンセラー	176	175	201
(6)事務職員	205	210	238
(7)養護教諭	13	18	10
(8)少人数指導(習熟度別, T・Tなど)担当	100	99	76
(9)校務員・用務員			182
(10)スクールサポーター(印刷等を補助する方)	75	159	253
(11)部活動の外部指導員	215	243	290
(12)警備員	122	123	157
(13)ALT(AET)	208	218	245
(14)退職教員で副校長・教頭を補佐する立場	48	58	59
(15)副担任			8
(16)スクールソーシャルワーカー	124	113	140
(17) (1)~(16)以外	51	20	0
(18)独自では採用していない			18



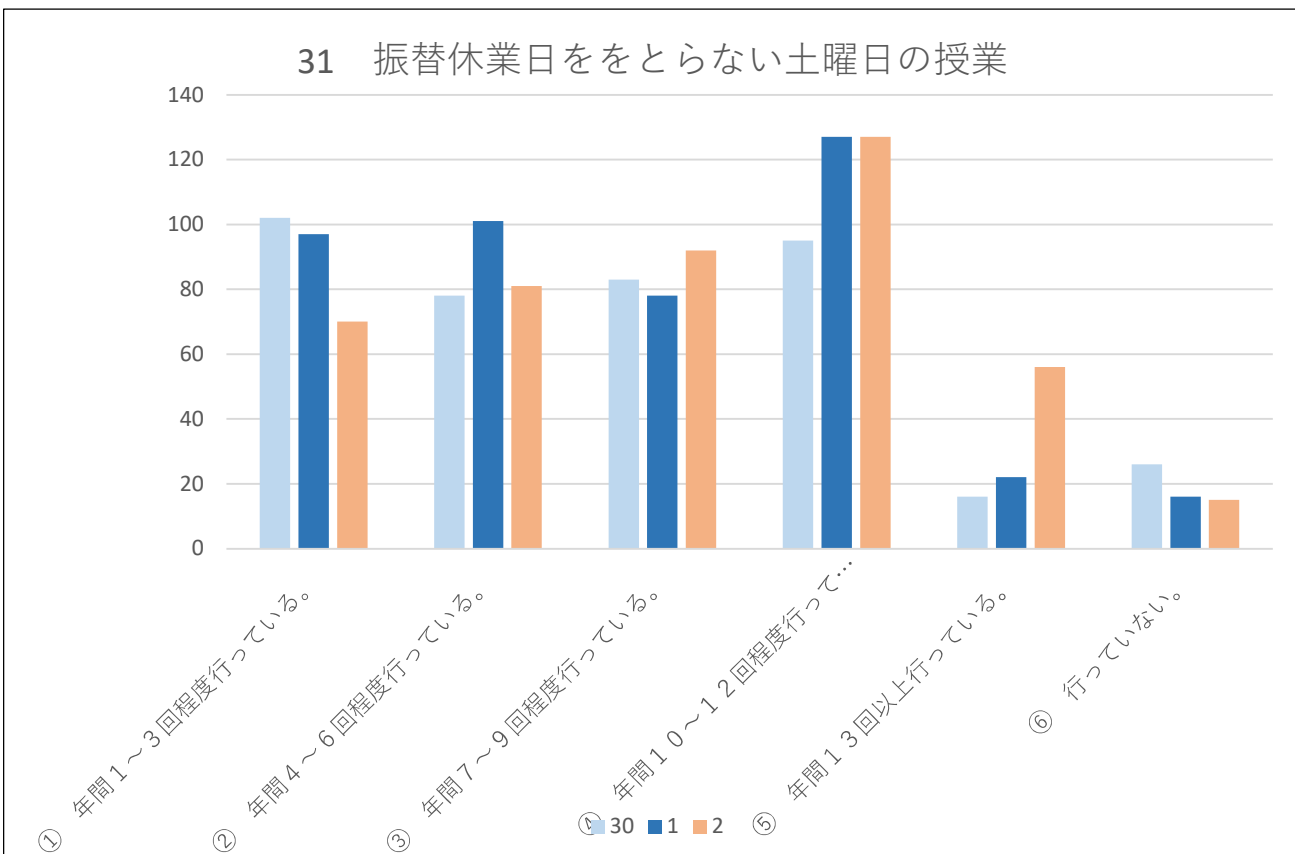
〈分析・考察〉

SC、事務職、部活指導、ALT、スクールサポーター等に集中している。令和2年度は、特別支援教育担当が増加しているが、令和3年度から各校での特別支援教室への対応もあるものと推測できる。

31 児童生徒が振替休業日をとらない土曜日の授業を年何回行っていますか。

設 問	30	1	2
① 年間1～3回程度行っている。	102	97	70
② 年間4～6回程度行っている。	78	101	81
③ 年間7～9回程度行っている。	83	78	92
④ 年間10～12回程度行っている。	95	127	127
⑤ 年間13回以上行っている。	16	22	56
⑥ 行っていない。	26	16	15

400 441 441



〈分析・考察〉

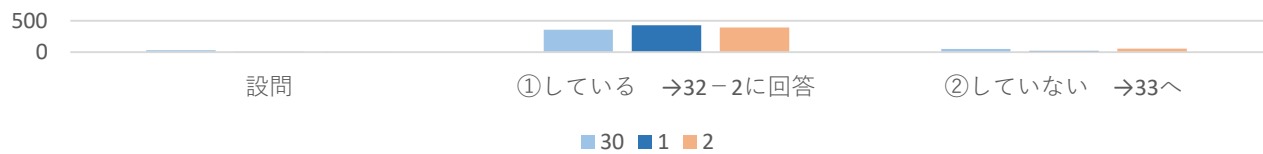
年間10回～12回行っている学校が昨年度と同じ割合である。学校公開や地域性などにより土曜日の授業の実施されているが、休暇を取得しにくい現状の中で週休日や休日などの負担をできるだけ軽減していく必要がある。

32 施設開放についてお答えください。

(1) あなたの学校は学校開放をしていますか。

設問	30	1	2
----	----	---	---

(1) あなたの学校は学校開放をしていますか

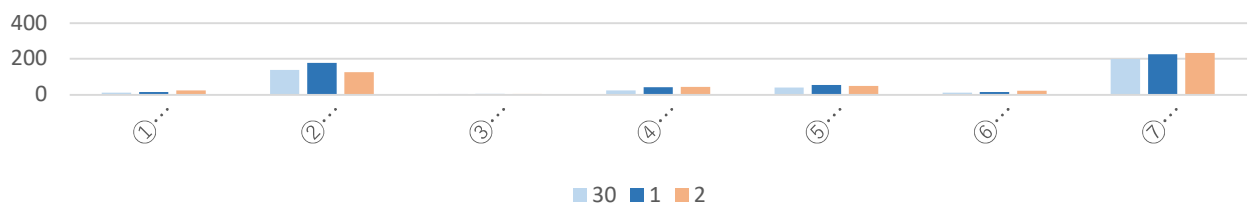


(2) 開放時の管理者(安全管理者)をお答えください。(複数回答可)

設問	30	1	2
①校長	11	15	23
②副校長・教頭	137	177	125
③教職員	4	3	3
④教育委員会の職員	23	41	44
⑤教育委員会任用の指導員	39	54	49
⑥ボランティア	11	14	21
⑦開放団体の指導者	199	225	233

424 529 498

(2) 開放時の管理者(安全管理者)をお答えください。(複数回答可)

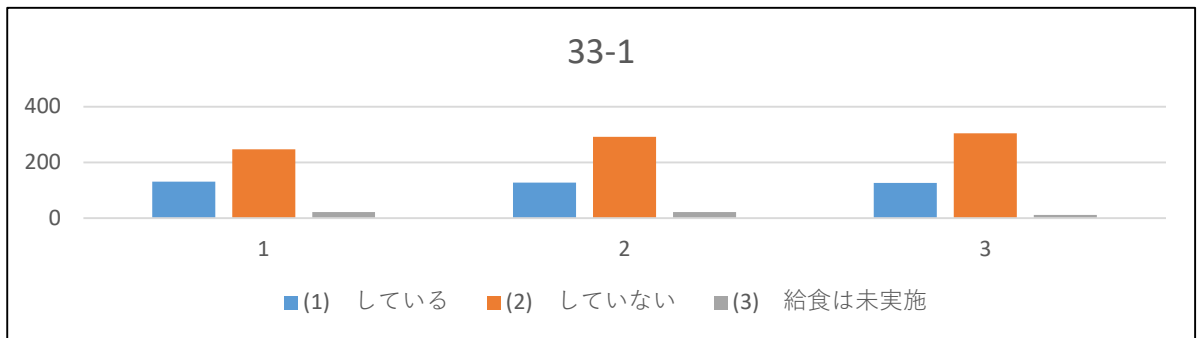


〈分析・考察〉

昨年度と同様「開放団体の指導者」が最も多いが、次いで副校長が安全管理者となっている。負担軽減のためには、副校長が担う業務から外していくなど、今後改善していく必要がある。

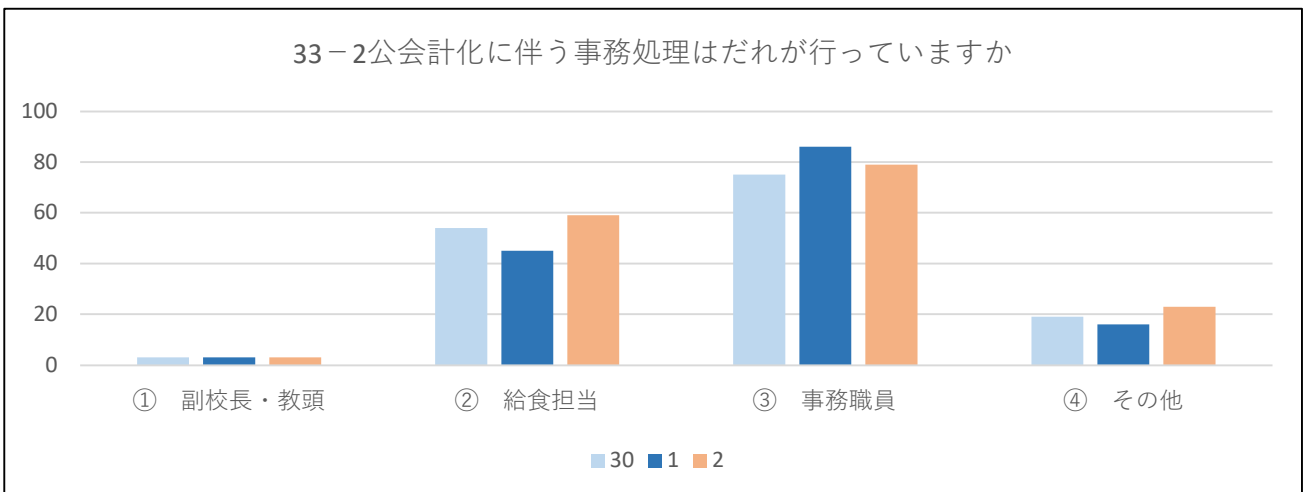
33-1 あなたの学校は、給食費を公会計化(給食費を市区町村の歳入・歳出とすること)していますか

設問	30	1	2
(1) している	131	127	126
(2) していない	247	292	304
(3) 給食は未実施	22	22	11



33-2 33-1で ①いる と答えた方のみお答えください。公会計化に伴う事務処理はだれが行っていますか

設問	30	1	2
① 副校長・教頭	3	3	3
② 給食担当	54	45	59
③ 事務職員	75	86	79
④ その他	19	16	23



〈分析・考察〉

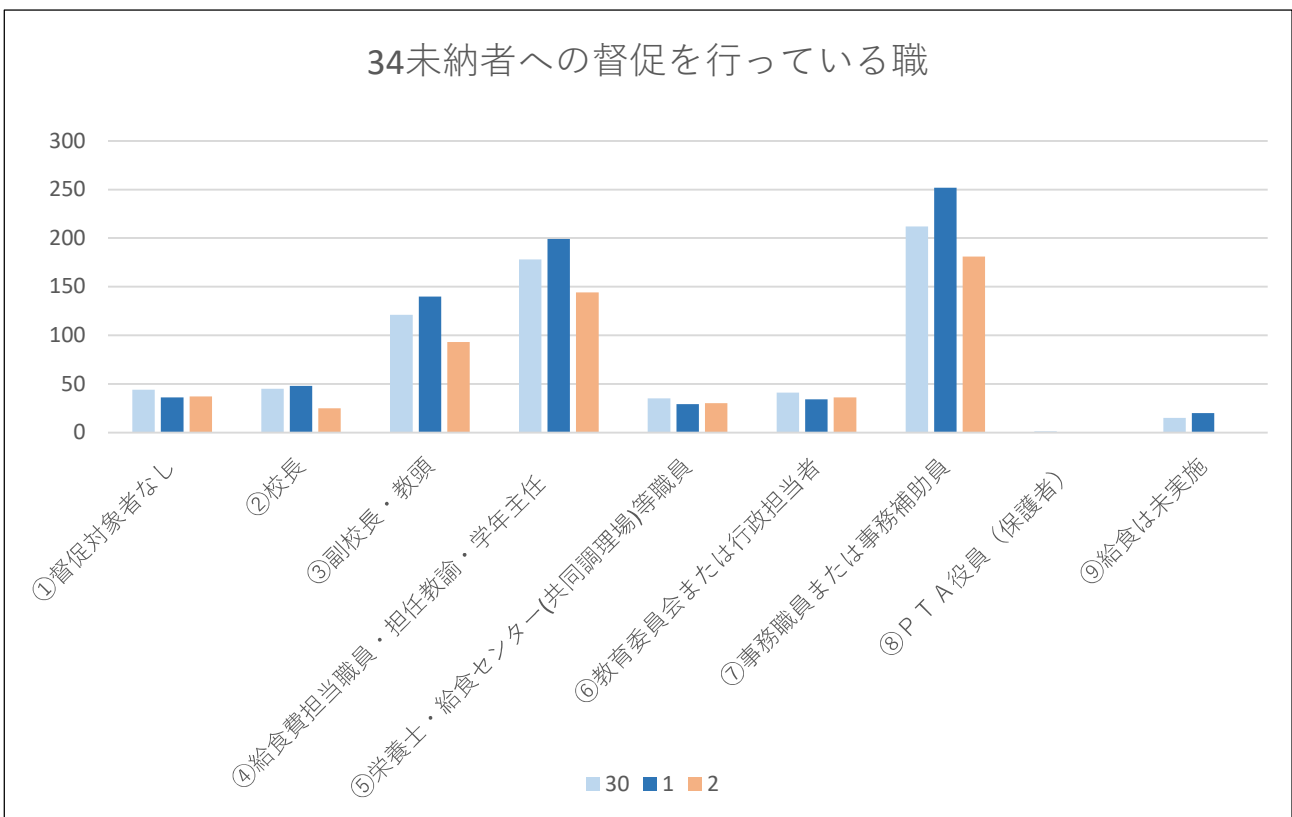
回答した学校の内、給食未実施は2.5%で昨年度の半分になっている。実施校でも公会計化は約30%である。事務処理の中心となっているのは、事務職員、次いで給食担当職員となっている。

34 あなたの学校の給食費未納状況についてお答えください。
未納者への督促を行っている職等をお答えください。(複数回答可)

設問	30	1	2
①督促対象者なし	44	36	37
②校長	45	48	25
③副校長・教頭	121	140	93
④給食費担当職員・担任教諭・学年主任	178	199	144
⑤栄養士・給食センター(共同調理場)等職員	35	29	30
⑥教育委員会または行政担当者	41	34	36
⑦事務職員または事務補助員	212	252	181
⑧PTA役員(保護者)	1	0	0
⑨給食は未実施	15	20	0

692 758 546

34未納者への督促を行っている職



〈分析・考察〉

事務職員が行う場合が最も多いが、教員や管理職の業務としている学校も多い。自校給食なのか、センター給食なのか、実施の形態の違いはあるにしても、教員や管理職には負担になっており、基本的に集金の督促を教育職員が行うべきではないと考える。

あ と が き

都中副校長会員の皆様、調査部の皆様、事務局の方のご理解とご協力をいただき、令和2年度「東京都公立学校副校長会の実態調査」を刊行することができました。回答をいただいた、副校長の皆さんの貴重な声の結集である、本冊子が学校教育の環境改善につながるようにご活用いただければ幸いに思います。

この調査は、全国公立学校教頭会調査部が作成したもので、前年度の調査内容を削除した項目は6つ、新しい加えた項目は3つあり、精選された調査内容となっていると考えられる。

昨年度から各自治体での取組が始まった「働き方改革」により、サポート制度や支援員の動員等から例年より好転し始めた兆候がみられ項目もありました。また、今年度は、新型コロナウイルス感染への影響から、副校長の職務内容も多少変容が見られたのではないのでしょうか。

この調査を踏まえ、私たち副校長は、現状を多方面に伝え、更に校務改善・軽減を押し進めていくことが必要だと感じています。そして、「予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となる人材を育成すること」が求められている現代教育で、我々も如何なる事態に対しても屈せず、魅力ある副校長職とすべく日々精進していかなければなりません。

最後になりましたが、校務ご多用の中、調査にご協力いただきました会員の皆様、事務局の皆さんに感謝し、御礼を申し上げます。

令和2年12月吉日

調 査 部 員	氏 名
調査部長 北区立稲付中学校	井上 隆
副部長 江戸川区立清新第一中学校	鈴木 浩章
部員 港区立御成門中学校	阿部 俊幸
小金井市立東中学校	竹本 葉子
多摩市立東愛宕中学校	前川 法彦
担当副会長 目黒区立第十中学校	牧野 潤子